

下向Ⅱ遺跡発掘調査報告書

太陽光発電所建設工事に伴う遺跡発掘調査

2019. 10

岩手県洋野町教育委員会

下向Ⅱ遺跡発掘調査報告書

太陽光発電所建設工事に伴う遺跡発掘調査

序

洋野町は岩手県の最北端に位置し、北は青森県三戸郡階上町、西は軽米町、南は久慈市、東は太平洋に接し、海と高原に囲まれた自然豊かな町です。平成 18 年 1 月 1 日、旧種市町と旧大野村が合併して洋野町が誕生しました。

町内には現在 219 箇所 の遺跡が登録されています。先人の残したこれらの文化遺産を保護し、保存していくことは私たち町民に課せられた重大な責務であります。

本報告書は、太陽光発電所建設工事に伴う下向Ⅱ遺跡の埋蔵文化財調査の報告をまとめたものです。この調査の結果が今後この地域の歴史を解明する上で、いささかでもお役に立てれば幸いです。また、本書が関係者はもちろん、広く町民の方々に活用され、埋蔵文化財に対する理解と保護に多少なりとも寄与されることを願っております。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書作成にあたり、多大なご助言ご協力をいただきました関係者の方々に厚く御礼を申し上げます。

令和元年 10 月

洋野町教育委員会

教育長 林 剛敏

例 言

1. 本報告書は、岩手県九戸郡洋野町中野第1地割地内に所在する、下向Ⅱ遺跡発掘調査結果を収録したものである。
2. 本遺跡の調査は、太陽光発電所建設に伴う事前の緊急発掘調査であり、調査に係る費用は事業主に負担いただいた。事業主は次のとおりである。
Tsubaki Solar 合同会社
3. 本遺跡の岩手県遺跡台帳の遺跡番号はIF99-0251である。
4. 調査主体者：洋野町教育委員会
担当者：千田政博
5. 調査指導 岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課
6. 資料の分析・鑑定については下記の方々、機関に依頼した。(順不同・敬称略)
遺跡の地質調査：日本地質学会会員 松山力
自然科学分析：バリノ・サーヴェイ株式会社
7. 依頼原稿について執筆者の氏名は、文頭に記載してある。
8. 第Ⅳ章及び第Ⅴ章を除き本報告書の執筆・編集・構成は千田政博が担当した。
9. 野外調査に際して、下記の方々からご協力を賜った。記して感謝申し上げます。(敬称略)
株式会社岩手測器社、有限会社薩摩建設
10. 発掘調査作業においては、次の方々にご協力いただいた。(五十音順、敬称略)
安藤セツ、岩谷タミ、金澤ユウ子、川戸ちせ、黒坂吉蔵、小坂恵、大道きよ、館野隆、塚野忠男、
庭瀬チサ子、庭瀬麗子、梶谷ユリ子
11. 室内整理、報告書作成にあたって、次の方々にご協力いただいた。(五十音順、敬称略)
村田千鶴、横山香
12. 座標点の測量及び空中写真撮影は、次の機関に委託した。
座標点の測量：株式会社北山測量設計
空中写真撮影：エイト技術株式会社
13. 調査で得られた諸記録等については、洋野町教育委員会で保管、管理している。
14. 引用・参考文献については文末に取めた。

目 次

| | |
|-----|--|
| 序 | |
| 例 言 | |
| 目 次 | |
| 凡 例 | |

本 文

| | |
|------------------|----|
| I. 遺跡の概要と調査に至る経緯 | |
| 1. 遺跡の概要 | 3 |
| 2. 調査に至る経緯 | 3 |
| II. 調査の概要 | |
| 1. 野外調査について | 3 |
| 2. 室内整理作業について | 4 |
| III. 洋野町内の遺跡 | 5 |
| IV. 遺跡の地形と地質 | |
| 1. 地学的環境概要 | 17 |
| 2. 遺跡の土・地質 | 17 |
| V. 下向II遺跡の自然科学分析 | |
| 1. 試料 | 19 |
| 2. 分析方法 | 20 |
| 3. 結果 | 22 |
| 4. 考察 | 28 |
| VI. 調査の成果 | |
| 1. 検出された遺構について | 36 |
| 2. まとめ | 36 |
| 写真図版 | 31 |
| 報告書抄録 | 41 |

表

| | | | |
|-----------------|----|-------------------|----|
| 第1表 町内の遺跡一覧 (1) | 12 | 第2表 放射性炭素年代測定結果 | 23 |
| 第1表 町内の遺跡一覧 (2) | 13 | 第3表 花粉分析結果 | 24 |
| 第1表 町内の遺跡一覧 (3) | 14 | 第4表 植物珪酸体含量 | 24 |
| 第1表 町内の遺跡一覧 (4) | 15 | 第5表 テフラ分析結果 | 25 |
| 第1表 町内の遺跡一覧 (5) | 16 | 第6表 重鉱物火山ガラス比分析結果 | 25 |

図 版

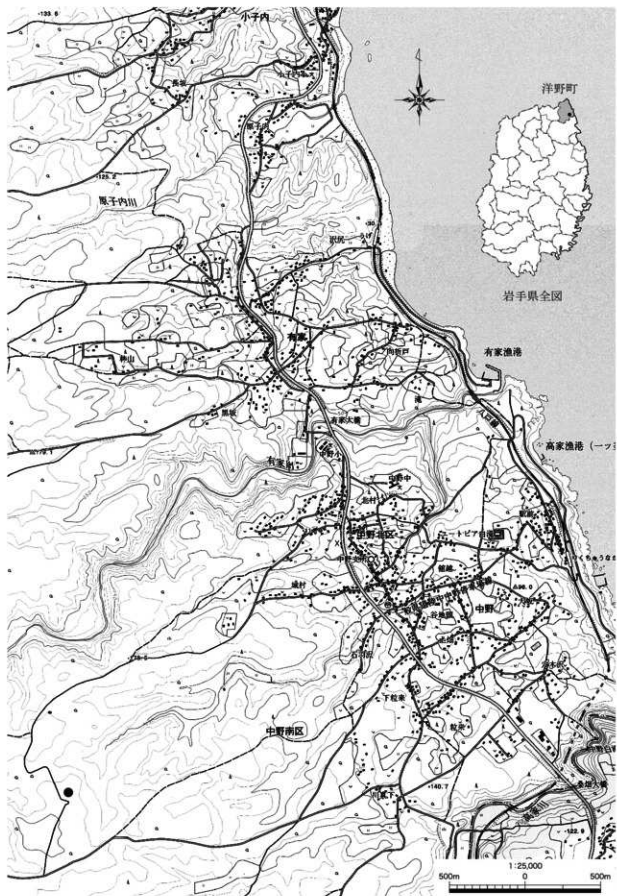
| | | | | | |
|-----|-------------|----|------|-----------|----|
| 第1図 | 遺跡位置図 | 1 | 第7図 | 重鉱物火山ガラス比 | 26 |
| 第2図 | 遺跡範囲図 | 2 | 第8図 | 火山ガラス屈折率 | 27 |
| 第3図 | 町内の遺跡位置図 | 11 | 第9図 | 斜方輝石の屈折率 | 28 |
| 第4図 | 深掘1土層序 | 17 | 第10図 | 調査区範囲図 | 34 |
| 第5図 | 深掘1断面試料採取位置 | 20 | 第11図 | 遺構配置図 | 35 |
| 第6図 | 放射性炭素年代測定結果 | 23 | 第12図 | 土坑・溝状土坑 | 37 |

写真図版

| | | | | | |
|-------|----------------------|----|-------|-------------|----|
| 写真図版1 | 花粉分析プレパレート内の状況・植物建群体 | 31 | 写真図版4 | 遺跡遠景・近景 | 38 |
| 写真図版2 | テフラ | 32 | 写真図版5 | 遺跡全景・深掘1土層序 | 39 |
| 写真図版3 | 重鉱物・火山ガラス | 33 | 写真図版6 | 土坑・溝状土坑 | 40 |

凡 例

1. 遺構図版の溝状土坑・土坑の縮尺は1/60である。
2. 本書で使用する遺構表示記号は下記による。
TP：溝状土坑 SK：土坑
3. 第11図遺構配置図、第12図の遺構実測図に付した方位は、国家座標第X系による座標北を示す。
4. 第1図遺跡位置図、第2図遺跡範囲図及び第3図町内の遺跡位置図は25,000分の1の洋野町管内図、第10図調査区範囲図は岩手県遺跡情報検索システム(平成30年度データ)所収の地形図を複写して使用した。
5. 遺構写真図版は縮尺不定である。掲載順は遺構図版と同様である。



第1図 遺跡位置図



第2図 遺跡範囲図

I. 遺跡の概要と調査に至る経緯

1. 遺跡の概要

下向Ⅱ遺跡は、洋野町役場種市庁舎から南南東13.4km、JR八戸線中野駅から西南西3.7kmの洋野町中野第1地割地内の丘陵地に位置する。海岸からは3.8kmであるが、旧種市町は全般に海岸から3km以上離れた丘陵地はほぼ山林で、また、中野地区は開発が少ない地域であり遺跡の様相は不明である。近隣の遺跡としては三陸沿岸道路建設に伴う発掘調査が行われた下向Ⅰ遺跡と中野城内遺跡がある。下向Ⅰ遺跡では陥し穴状遺構や縄文時代中期～後期の土器片、弥生時代中期～後期の土器片が出土している。中野城内遺跡でも陥し穴状遺構が検出されたほか早期中葉の白浜式の特徴を持つ貝殻土器が出土している。

本遺跡を中心とした一帯は、昭和期に製炭が盛んに行われていた場所で、埋蔵文化財包蔵地の登録はなかったが、試掘調査により新規に発見された遺跡である。

2. 調査に至る経緯

本調査は太陽光発電所建設に伴い実施されたものである。その経緯は平成27年2月2日、事業者から事業地の埋蔵文化財包蔵地の所在について照会があり、事業地面積が広大なため試掘調査が必要であるとの回答を行った。その後平成27年5月27日付けで試掘調査依頼書の提出があった。平成27年7月13日～21日まで328,376㎡を対象に試掘調査を実施し、遺構、遺物の確認がなかったため、工事着手が可能である旨を通知した。その後、平成30年3月28日、追加の試掘調査の依頼書が提出された。平成30年10月9日～同月19日まで24,485㎡を対象に試掘調査を実施した結果、溝状土坑、土坑跡とみられるプランを確認し、協議が必要である旨の回答結果を通知した。事業者と協議の結果、設計変更が不可能とのことから、発掘調査を実施することとなり、平成31年1月15日、文化財保護法第93条第1項の規定により届出に係る進達依頼が洋野町教育委員会へ提出された。その後平成31年1月21日、教生第33-418号により、岩手県教育委員会教育長より発掘調査を実施するよう通知がなされ、同年3月13日、発掘調査の依頼書が洋野町教育委員会へ提出された。平成31年4月9日より同月25日まで発掘調査を実施した。

II. 調査の概要

1. 野外調査について

発掘調査の対象地は、長辺が50m、短辺が25mの長方形で、それらを網羅する調査範囲用のグリッドを設定した。区画原点は第X系 X=32800.000m、Y=77842.000mで、この原点から東方及び南方へ一辺4mの区画を設定した。区画名は東西方向のXラインには1から12までの算用数字を順に与え、南北方向のYのラインにはAから0までの15文字のアルファベットを付した。

グリッド設定のために設置した基準点の成果は以下のとおりである。

基準点1 X=32728.821 Y=77881.047 H=189.377

基準点2 X=32814.012 Y=77957.898 H=191.113

基準点3 X=32820.684 Y=77849.343 H=186.546

表土中に遺物の包含が確認されなかったことから、重機による表土除去を行った。その後動機によるクリーニングを行い遺構の検出を行った。遺構の検出は、本報告書の第IV章「2. 遺跡の土・地質」において掲載されている松山力氏が区分した土層序（17頁第4図）の第4層～第5層上面で行った。

遺構の精査については、堆積土層の観察用セクションベルトを残す2分割を基本として設定し、土層の堆積状況の確認や記録を行い完掘した。遺構内堆積土は上位から下位に算用数字を付し、土層観察の注記は標準土色帖に換り記録した。遺構内堆積土層断面の実測及び遺構の平面実測については、株式会社CUBICの「遺構実測支援システム（遺構くん）」を用いてトータルステーションによる測量で作成した。遺構の名称は検出順に番号を設定し、室内整理作業においてもそのまま番号を用いて登録した。

野外調査での写真撮影は遺構、遺物の検出状況や出土状況に応じて適宜行うこととし、35mmカメラ1台（モノクローム）を主に使用し、補助としてデジタルカメラも併用した。調査の終了段階で調査区直上の全景写真の航空写真撮影（デジタルカメラ）を業務委託として行った。

2. 室内整理作業について

野外調査終了後、記録を整理し発掘調査報告書の編集作業を行った。野外調査で撮影したフィルム写真は、現像した後、ネガ毎に撮影記録の記入を行いアルバムに収納した。デジタル写真についてはデータのリネーム、コンタクトシートによる出力を行った。遺構図面については、株式会社CUBICの「遺構実測支援システム（遺構くん）」で作成した第一原因のデータを基に、報告書掲載用の図版として第二原因の編集を行った。

また、これらの作業と併行して自然科学分析等を行い、原稿執筆、表の作成、作成した個々の挿図や調整済みの画像を併せて報告書を編集した。

Ⅲ．洋野町内の遺跡

洋野町内に所在する遺跡は、平成 31 年（2019）4 月現在、岩手県遺跡台帳に 219 遺跡が登録されている。平成 23 年（2011）以降、三陸沿岸道路建設や再生可能エネルギー事業等に係る試掘調査により新規発見の遺跡が増加している。

町内遺跡詳細分布調査は、旧種市町が行った平成 16 年度（2004）の角の浜・伝吉・平内・妻沢（姥沢）地区の分布調査のみである。旧大野村分についても実施しておらず、町内には未発見の遺跡が多く所在するものと想定される。町内の発掘調査は岩手大学草間俊一教授により昭和 30 年（1955）から昭和 36 年（1961）にかけて遺跡の踏査と発掘調査が行われたのが最初であるが、その後平成 25 年度（2013）までの調査事例は数件にとどまっていた。平成 26 年度（2014）以降、三陸沿岸道路建設等に伴う本発掘調査により調査事例が急激に増加したものの、町内に所在する遺跡の様相については不明な部分が多い。

旧石器時代の遺跡の登録はないが、「角川日本地名大辞典 3」によると、旧石器遺物出土遺跡として鉄山遺跡（大谷鉄山か？）、有家遺跡（上のマッカ遺跡か？）が紹介されている。和座川上流の海岸段丘上に立地する鉄山遺跡から石刃・剥片・敲石が出土、海岸段丘上に立地する有家遺跡から石斧・剥片が出土し、いずれも高館火山層最上部から発見されたとある。しかし、遺跡の名称は現在登録されているものに該当せず、詳細は不明である。

縄文時代の遺跡数は、全体の 7 割以上を占める。草創期の遺跡は現在のところ登録はないが、洋野町境から 3km の青森県三戸郡階上町大字平内にある滝端遺跡では爪形文土器が出土している。また、階上町に隣接する八戸市南南区黄檗遺跡、洋野町に隣接する軽米町馬場野Ⅱ遺跡でも草創期の土器が出土していることから、町内からも出土する可能性がある。

早期の遺跡として、ゴッソー遺跡（20）、大宮Ⅱ遺跡（47）、大宮Ⅰ遺跡（48）、宿戸遺跡（199）、中野城内遺跡（203）などがある。大宮遺跡は、昭和 36 年（1961）に草間教授により発掘調査された遺跡で、A・B・C の 3 地区に分けて調査が行われ報告されている。A・B 地区からは貝殻文土器が出土しており、特に B 地区からは胴部に貝殻条痕、口唇部に貝殻腹線文の尖底土器が出土している。草間教授は、岩手県で初めて復元された貝殻文の尖底土器であり、発見されたことは多大な成果であると報告している。ゴッソー遺跡では現（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（以下岩文振埋文に略称する）による平成 6 年度（1994）の発掘調査で、遺構には伴わないが日計式土器、魚骨回転文土器、寺の沢式土器等が出土している。中野城内遺跡は、三陸沿岸道路建設事業に伴い、岩文振埋文により平成 29 年度（2017）に調査が行われた。調査の結果、早期とみられる土坑、白浜式土器が出土している。

前期の遺跡として、ゴッソー遺跡（20）、上のマッカ遺跡（43）、北ノ沢Ⅰ遺跡（163）、小田ノ沢遺跡（200）などがある。ゴッソー遺跡は早期～晩期の縄文土器が出土しているが、前期初頭の遺物量が多く、特に平成 6 年度（1994）の岩文振埋文による本発掘調査で出土したコンパス文土器や押型文土器は岩手県で初めての出土と考えられる。同遺跡もやはり昭和 36 年（1961）に草間教授により発掘調査された遺跡で、縄文時代前期の土器を中心に縄文時代早期の土器、弥生時代の土器、土師器片、石器を採取したとの報告がある。なお、上のマッカ遺跡は昭和 36 年（1961）草間教授の調査により、貝塚が存在する可能性が指摘されている。

中期の遺跡として、千敷平遺跡（4）、ゴッソー遺跡（20）上のマッカ遺跡（43）、北ノ沢Ⅰ遺跡（163）などがある。平成 27 年度（2015）洋野町教育委員会によるゴッソー遺跡の本発掘調査では、中期初頭の堅穴住居跡が 1 軒発見され、三重の入れ子にした土器埋設炉と単体の土器埋設炉が並列した状態で検出された。その入れ子の土器埋設炉の中からヒエの胚孔が検出された。

後期の遺跡として、平内Ⅱ遺跡（65）、上水沢Ⅱ遺跡（92）、西平内Ⅰ遺跡（185）、南川尻遺跡（194）、サンニヤⅠ遺跡（195）、北鹿糠遺跡（196）、下向遺跡（202）、サンニヤⅢ遺跡（218）などがある。町内の縄文時代の

遺跡で、後期前葉に位置付けられる遺跡が一番多く、中でも溝状土坑（陥し穴状遺構）と遺構外から後期前葉の土器が出土する遺跡が多数を占める。平内Ⅱ遺跡は洋野町教育委員会により、平成11年度（1999）から平成25年度（2013）の間、延べ6箇年発掘調査が行われた。屋外炉、集石、焼土遺構、溝状土坑が検出されており、出土した土器は主に後期前葉に位置付けられるものである。上水沢Ⅱ遺跡は平成12年度（2000）に岩文振埋文により本発掘調査が行われ、後期前葉から後葉の竪穴住居跡が11軒発見された。

なお、三陸沿岸道路建設事業に伴い発掘調査が行われた遺跡で、後期に属する竪穴住居跡が検出された遺跡は、西平内Ⅰ遺跡（185）、南川尻遺跡（194）、サンニヤⅠ遺跡（195）、北鹿糠遺跡（196）、南鹿糠Ⅰ遺跡（206）があり、南川尻遺跡は後葉、それ以外は前葉のものである。

晩期の遺跡として、たけの子遺跡（21）、大平遺跡（32）、ニサクドウ遺跡（58）、戸類家遺跡（61）、田ノ沢遺跡（63）などがある。特にたけの子遺跡は町内で晩期を代表する遺跡である。昭和36年度岩手県遺跡台帳作成調査において、戦争中開墾の際多数の土器が出土し、現在は植林されており包含層は良好で重要な遺跡であるとの報告がある。洋野町立種市歴史民俗資料館収蔵の考古資料の多くはこの遺跡からの出土である。戸類家遺跡は昭和32年（1957）に慶応大学江坂輝彌氏により発掘調査が行われており、土器、石器の他に土偶が出土している。この時の土偶は現在慶応義塾大学考古学研究室に収蔵されている。また、昭和7年（1932）には岩手県史跡名勝天然記念物調査会委員であった小田島隼郎氏が同町を訪れており、その時に採集された田ノ沢遺跡、八木貝塚の出土遺物が岩手県立博物館に収蔵されている。

なお、貝塚遺跡としてホッキリ貝塚（33）、八木貝塚（37）、小子内貝塚（40）、黒マッカ貝塚（41）がある。ホッキリ貝塚からは岩手県で初めて縄文時代の製塩土器が出土しており、久慈市の大芦Ⅰ遺跡で平成9年（1997）に発見されるまで、製塩土器が発見された県内唯一の遺跡であった。海岸付近に位置する同貝塚は、昭和24年（1949）に行われた造船所の建設工事によりほぼ壊滅したとみられるが、製塩遺跡であった可能性がある。洋野町の故玉沢重作氏により製塩土器が発見され、その後岡山大学名誉教授近藤義典氏が、芹沢長介氏、伊東信雄氏、江坂輝彌氏から情報を得て昭和35年（1960）同遺跡を調査し、土器の検討を行っている。このほか縄文時代の製塩土器は、ゴッソー遺跡の平成12年度（2000）岩文振埋文による本発掘調査でコンテナ1箱分出土している。洋野町立種市歴史民俗資料館には、たけの子遺跡で採取された縄文時代の製塩土器片が多数収蔵されている。また、平成16年度（2004）の種市町内遺跡詳細分布調査において、南平内Ⅰ遺跡（182）より製塩土器片が晩期の縄文土器とともに発見された。同遺跡は現在の汀線まで約150mの距離であるが、時代によっては汀線付近であった可能性もある。遺跡の残存状況も良くないため詳細は不明であるが、位置から推測すると製塩を行った遺跡であることも考えられる。

弥生時代の遺跡として、大平遺跡（32）、大宮Ⅱ遺跡（47）、大宮Ⅰ遺跡（48）、平内Ⅱ遺跡（65）、上水沢Ⅱ遺跡（92）などがある。先述した平内Ⅱ遺跡では、平成25年度の調査で弥生時代前期後葉の竪穴住居跡が2軒検出されている。上水沢Ⅱ遺跡では弥生時代後期の竪穴住居跡が1軒検出され、土器がコンテナ約1箱分出土している。なお、西平内Ⅰ遺跡では、沈積間に交互刺突文を有する弥生時代後期の土器片が出土している。

古墳時代の遺跡については集落遺跡の確認はないが、袖山遺跡（38）において、剣形の石製模造品が表面採集されている。同品もまた故玉沢重作氏により発見されたもので、長さ4.2cm、最大幅1.5cm、厚さは最大で4mm、重さは3.6g、石材は北上山地が産出地の蛇紋岩で、色調は暗緑灰色である。茎の表現が簡略化された二等辺三角形に三角形を付加した形状で、全体が丁寧に研磨されて、頭部には垂下孔とみられる径2mmの穿孔があり、表面は錆が表現されている。形状から5世紀後葉より古い可能性がある。袖山遺跡は標高約50mの海岸段丘上に立地し、現状は山林などで、主な時代は縄文時代であるが、石製模造品の他には当該期の遺物は発見されていない。昭和28年（1953）に東北大学伊東信雄教授が東北地方の石製模造品の集成を行い発表した「東北地方に於ける石製模造品の分布とその意義」により同品が紹介され知られるようになった。この石製模造品も岩手県で初めて

発見されたもので、昭和58年(1983)に一戸町馬場平遺跡から剣形の石製模造品が発見されるまで県内唯一のものであった。

奈良・平安時代の遺跡として、城内遺跡(11)、ニサクドウ遺跡(58)、八森遺跡(73)、サンニヤⅡ遺跡(205)、南鹿糠Ⅰ遺跡(206)などがある。サンニヤⅡ遺跡では、三陸沿岸道路事業に伴い平成26年度(2014)・27年度(2015)の岩手県教育委員会による発掘調査で、8世紀後半から9世紀前半の時期の竪穴住居跡が3軒検出されている。また、国道45号線種市登坂車線整備事業に伴い、岩文振埋文により平成28年度(2016)に調査が行われた、八森遺跡でも8世紀代の竪穴住居跡が1軒検出されている。城内遺跡からは8世紀代と考えられる土師器の長胴甕、球胴甕、甌、土師器環が出土している。なお、草間教授の報告書によるとニサクドウ遺跡で土製支脚、土師器環が出土している。

二十一平遺跡(69)では古代(平安時代)の製塩土器が出土している。同遺跡は岩手県と青森県境を流れる二十一川の南側の汀線付近に位置する。海岸整地に伴う重機の掘削により遺跡の存在が明らかになり、平成15年度(2003)に新規登録された。製塩土器片、土製支脚片が多量に散布し、被熱したような円礫もみられた。現在までにコンテナで約5箱分が採取されている。遺跡の立地、発見された遺物の状況から製塩を行った可能性が高いが、保存状況は重機の掘削により一部破壊されていると考えられる。また、未登録の遺跡ではあるが、胸木野智寛氏、相原淳一氏による古津波堆積層の調査に伴い海岸付近で採集されている製塩土器もある。なお、古代の製塩土器は海岸から6.2kmの館野遺跡(207)でも採集されており、町内には縄文時代や古代の製塩土器、土製支脚を伴う遺跡が多く所在することが予想され、製塩遺跡の発見や製塩土器の資料の増加が見込まれる。

中世の遺跡として中世城館跡の分布調査が昭和59年(1984)に岩手県教育委員会により行われており、岩手県遺跡台帳には28遺跡が登録されているが、ほとんどが城主などの詳細が不明である。

種市の城内地区には種市氏の居城である種市城跡が所在する。種市氏は中世～近世初期に当地方を領有していた三戸南部氏(後の盛岡南部氏)の家臣である。『南部藩参考諸家系図』(以後系図)によれば、種市中務(実名不詳)が三戸南部氏24代晴政から種市村、蛇口村(軽米町)ならびに傍村賜り種市村に居住したとある。およそ16世紀半ば頃と推測されるが、それ以前のことは不明である。『奥新田指録』には、三戸南部氏25代晴龍の股腹の臣として中務が久慈備前と名を連ねており、三戸南部氏の有力家臣であったとみられる。系図によると、種市中務の長男光徳は同じく中務と称した。光徳は三戸南部氏26代信直(初代盛岡藩主)から種市村ならびに傍村に600石を賜ったとある。『聞老遺事』によると、天正19年(1951)九戸政実の乱の際、信直方に属し18人の部下と鉄砲三挺、弓三張で参陣している。また、2代盛岡藩主利直の時に起きた慶長5年(1600)の岩崎合戦では、部下18人と参陣している。なお、系図には光徳の妻は根城南部氏(後の遠野南部氏)18代八戸政宗の弟新田政盛の娘であることが記されている。

その後光徳の長男孫三郎が家督を継いだ。『聞老遺事』によれば大阪の夏の陣に出陣している。光徳と孫三郎父子は、初代盛岡藩主信直、2代盛岡藩主利直父子に仕え活躍した家臣であったが、孫三郎は3代盛岡藩主重直の時、罪ありということで禄を没収され、慶安2年(1649)に没している。

光徳の次男吉広は系図によれば、天正15年(1587)に初代盛岡藩主信直から閉伊口村(久慈市)を賜り住んでいたが、天正17年(1589)に蛇口村に替地を賜り、蛇口氏に姓を変えている。

岩手県遺跡台帳には、平時居住していた平城の種市城跡(16)と非常時に立てこもったとされる山城の種市城跡(17)が登録されている。平城の種市城跡はJR八戸線種市駅より西へ約9kmに所在し、平城跡は現在でも馬場屋敷、的場、神楽原敷など当時の名残と思われる地名が存在する。そこから南西へ約1kmに山城の種市城跡が位置する。

天正18年(1590)、豊臣秀吉の朱印状により初代盛岡藩主信直が「南部内七郡」を安堵されると、八戸・九戸地方一帯は信直が直接支配することとなり、寛永4年(1627)に根城南部氏が伊達氏に対する備えを理由に遠野

へ転封されると盛岡藩の直轄地になった。八戸には八戸城代が配置され、さらに八戸地方には八戸代官、九戸郡には久慈代官を派遣し支配にあたったようである。

寛文4年(1664)9月、3代盛岡藩主重直が跡継ぎを決めないままに死去した。同年11月、幕府は重直の次弟の重信と末弟の直房を呼び、盛岡藩10万石のうち8万石を重信に相続させ、残り2万石を直房に与え、新規に一藩をおこさせる処置を取った。寛文5年(1665)2月、盛岡藩より領地の配分が行われ、八戸を居城とし、三戸郡41箇村、九戸郡38箇村、志和郡4箇村、都合83箇村が付与された。八戸藩は、各村の支配のため通制という行政区域を用い、三戸郡には八戸廻・名久井通・長苗代通、九戸郡には軽米通・久慈通、志和郡には志和の行政区を設定し、各通には代官所を配置した。種市は八戸廻、大野は久慈通に属していた。

八戸藩の主な産業は、商業、林業、漁業、製塩業、鉄産業、造船業などがあり、特に製鉄業は原料である砂鉄と燃料の薪炭材が豊富であったため盛んに行われた。製鉄に関する史料は八戸藩の藩庁の日記である目付所日記、勘定所日記、民間の史料では晴山家文書、酒沢家文書、西町屋(石橋)文書などがあり、様相を知ることができる。

製鉄の中心地は大野で、鉄山会所として日私所がおかれ、鉄山支配人が詰めて生産方を指揮した。天保9年(1838)には、大野の鉄山として玉川山、金取山、葛柄山、水沢山、大谷山、川井山、滝山の七山があった。晴山家文書の天保8年(1837)「寛政年中より拾書」は鉄山支配人の経緯が記されているが、晴山文史郎から安永7年(1778)に初代晴山吉三郎へ受け継がれ、その後数人の支配人を経て、享和2年(1802)からは飛騨の浜谷(屋)茂八郎が引き継いだ。そして、文政6年(1823)には、鉄山は藩営となり、石橋徳右衛門が支配人に就任して、その下支配人に二代目晴山吉三郎が就いた。さらに天保5年(1834)の百姓一揆後は、軽米の淵沢円右衛門が支配人を命じられ、天保9年(1838)からは江戸の美濃屋宗(惣)三郎(家臣金子丈右衛門)へと移った経過が記されている。

近世の遺跡として町指定史跡の有家台場(46)がある。目付所日記によると、八戸藩では幕府から異国船警戒の命を受けて、寛政3年(1791)に鉄砲堅・目付御用掛を任命し、異国船の警戒に当たさせたようである。寛政5年(1793)の中里覚右衛門書き上げの「堅場」には「大堅」として鮫村、麦生、「小堅」として八太郎浦、淡浦、小船渡浦、有家浦、中野浦の名があげられている。藩の日記などには異国船の出没記録がいくつかあるが、目付所日記によると文政8年(1825)有家浦の沖合15里に異国船一隻が近寄り、伝馬船二隻を出して上陸の様子をみせたので、弓・鉄砲業など計34人の藩士が同日に派遣されたことが記されている。その後、安政元年(1854)八太郎・淡場尻・館鼻・塩越・鮫・小船渡・有家・久慈湊に台場が築かれ、有家にも陣屋堅の役人が任命された。有家台場跡の現況は、八戸線の建設工事などで破壊されているものの、保存状況は概ね良好で、盛土遺構の一部が残存している。

当町の特徴を示す製鉄関連の遺跡は、21箇所(旧種市町16箇所、旧大野村5箇所)登録されている。先述した七山の一つである大谷鉄山(26)は大谷地区にあり、鉄山操業により形成された集落とみられ、製鉄に関わった人々の子孫が多く居住している。製鉄関連の遺跡調査については、岩手県教育委員会の製鉄関連遺跡の詳細分布調査において、旧種市町5箇所、旧大野村35箇所の遺跡の所在を確認している。また、元野田村教育長、田村栄一郎氏によるたたら遺跡の踏査によると、旧種市町は鉄山路12箇所の他、密鏡場跡や鍛冶場跡など15箇所、旧大野村は42箇所と鍛冶場跡の調査結果報告(1987「みちのくの砂鉄いまいずこ」)がある。鉄滓が採集される遺跡が少なくとも60箇所以上にのぼり、未発見のものも含めると相当数になると考えられる。

なお、三陸沿岸道路建設事業に伴う発掘調査において南八木遺跡(201)で古代～中世の製鉄関連の遺跡が発見された。少なからず近世以前のものも所在することが予想されるが、町内の製鉄関連遺跡を踏査された佐々木清文氏によると、ほとんどが近世のもので、それ以前のもは所在しても少数であろうとのこと教示をいただいている。今後製鉄関連の詳細な町内全域の分布調査を行い、製鉄関連遺跡分布図の作成、遺跡の登録作業が必要である。

製鉄以外の金・銀・銅・鉛鉱山のいわゆる非鉄鉱業については、八戸藩の日記類に僅かにみられるが、盛岡藩領に比べ八戸藩領内には大きな金山はなく、小規模な金山がいくつかあるのみのようである。梅内家文書の慶安2年(1649)の「砂金採取運上金請取状」によると、沢尻、雪畑、小手沢、野そうけ山に金山があったことが記されている。岩手県遺跡台帳には金山跡として、小手野沢金山(14)、ノソウケ金山(23)の2遺跡が登録されている。

<引用・参考文献>

- 草間俊一 1963 『種市の歴史(原始・中世) 種市町遺跡の調査報告』種市町役場
角川書店 1985 『角川 日本地名大辞典3 岩手県』
田村栄一郎 1987 『みちのくの砂鉄いまいずこ』
伊東信雄 1953 『東北地方に於ける石製模造品の分布とその意義』『歴史第6輯』東北史学会
(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1996 『ゴッソー遺跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第238集
(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2001 『ゴッソー遺跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第357集
岩手県久慈地方振興局久慈農村整備事務所・(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
2002 『上水沢Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第391集
(公財)岩手県文化振興事業団 2015 『平成26年度発掘調査報告書 南川尻遺跡 下向遺跡 沼袋Ⅱ遺跡
沼袋Ⅲ遺跡 八幡沖遺跡 ほか調査概報(39遺跡)』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第647集
(公財)岩手県文化振興事業団 2016 『平成27年度発掘調査報告書 サンニヤ遺跡 房の沢Ⅳ遺跡 白石遺跡
ほか調査概報(33遺跡)』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第661集
国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・(公財)岩手県文化振興事業団 2017 『西平内Ⅰ遺跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第673集
(公財)岩手県文化振興事業団 2017 『平成28年度発掘調査報告書 岩洞Ⅰ遺跡・橋洞Ⅳ遺跡・八森遺跡
ほか調査概報(28遺跡)』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第676集
国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・(公財)岩手県文化振興事業団 2018 『北鹿遺跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第686集
国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・(公財)岩手県文化振興事業団 2018 『サンニヤⅠ遺跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第687集
(公財)岩手県文化振興事業団 2018 『平成29年度発掘調査報告書 岩洞Ⅰ・Ⅱ遺跡 和野新集神社遺跡 北野Ⅱ遺跡
木戸場遺跡 中野城内遺跡 沼里遺跡 根井沢穴田Ⅳ遺跡 耳取Ⅰ遺跡 千蔵城遺跡 ほか調査概報(23遺跡)』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第692集
岩手県教育委員会 1986 『岩手県中世城館分布調査報告書』岩手県文化財調査報告書第82集
岩手県教育委員会 1998 『岩手の貝塚』岩手県文化財調査報告書第102集
岩手県教育委員会 2006 『岩手の製鉄遺跡』岩手県文化財調査報告書第122集
岩手県教育委員会 平成28年3月 『岩手県内遺跡発掘調査報告書(平成26年度 復興関係)』
岩手県文化財調査報告書第146集
岩手県教育委員会 平成29年3月 『岩手県内遺跡発掘調査報告書(平成27年度 復興関係)』
岩手県文化財調査報告書第149集

岩手県教育委員会 平成30年3月 「岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成28年度 復興関係）」

岩手県文化財調査報告書第152集

岩手県種市町教育委員会 2004 「平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書」種市町埋蔵文化財調査報告書第1集

岩手県種市町教育委員会 2005 「種市町内遺跡詳細分布調査報告書1」種市町埋蔵文化財調査報告書第2集

岩手県洋野町教育委員会 2013 「平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書」洋野町埋蔵文化財調査報告書第1集

岩手県洋野町教育委員会 2015 「平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書」洋野町埋蔵文化財調査報告書第2集

岩手県洋野町教育委員会 2017 「ゴッソー遺跡発掘調査報告書」洋野町埋蔵文化財調査報告書第3集

洋野町 2006 「種市町史第六巻通史編（上）」種市町史編さん委員会

大野村 2006 「大野村誌第二巻史料編1」大野村誌編さん委員会



第3図 町内の遺跡位置図

| No. | 遺跡コード | 遺跡名 | ふりがな | 所在地 | 時代 | 種別 | 出土遺物・遺物 | 備考 |
|-----|-----------|-------------|------------|---------|-------|-----------|---|---|
| 1 | IF37-1386 | 内浜 | かどのほま | 種市第42地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | 昭和22、縄縄変変(平成23年度) |
| 2 | IF37-2396 | 伝吉1 | でんきちいち | 種市第43地割 | 縄文、古代 | 散布地 | 縄文土器(早・前・中期)、調子石、礫石、土師器等 | 昭和22、伝吉遺跡から名称・縄縄変変(平成23年度) 縄縄変変(平成23年度) |
| 3 | IF38-1086 | 奥田1 | かどかわのいち | 種市第39地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器(前・中・晩期)、石斧、礫石、礫器 | 昭和22、観音森(アノ森)遺跡から名称・縄縄変変(平成23年度) |
| 4 | IF47-2334 | 千歳平 | せんさいひら | 種市第48地割 | 縄文 | 集落跡 | 縄文土器(前・中・晩期)、石柵、調子 | |
| 5 | IF48-0170 | 平内1 | ひらないいち | 種市第34地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器(前・中期) | 昭和22、平内遺跡から名称・縄縄変変(平成23年度) |
| 6 | IF48-1276 | 曲照 | まなみだて | 種市第28地割 | 中世 | 城館跡 | 堀跡(破壊) | 昭和59年度調査 |
| 7 | IF48-2234 | 横手 | よこて | 種市第24地割 | 縄文、古代 | 散布地 | 縄文土器(晩期)、土師器 | 縄縄変変(平成23年度) |
| 8 | IF48-2283 | トナの本 | とらのき | 種市第21地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器(前・晩期) | |
| 9 | IF56-0320 | 鹿倉 | あらしき | 種市第29地割 | 縄文、弥生 | 集落跡 | 縄文土器(中期)、弥生土器 | |
| 10 | IF56-0370 | 八幡堂前(八幡堂南側) | はちまんどうだて | 種市第61地割 | 中世 | 城館跡 | 平部、堀跡 | 昭和59年度調査、八幡堂より名称変更(平成13年度) |
| 11 | IF57-0086 | 城内 | じょうない | 種市第56地割 | 縄文、古代 | 集落跡 | 土師器片割製、土師器壺 | |
| 12 | IF57-0229 | 鹿島原(鹿島原) | あらしきだて | 種市第50地割 | 中世 | 城館跡 | 堀跡(破壊) | 昭和59年度調査 |
| 13 | IF57-0264 | 柳野館 | たてのだて | 種市第53地割 | 中世 | 城館跡 | 平部、堀跡、竪穴 | 昭和59年度調査 |
| 14 | IF57-0309 | 小手野伏金山 | こてのきさわきんざん | 種市第51地割 | 近世 | 砂金採取跡 | 石臼 | 小手野伏金山より名称変更(平成13年度) |
| 15 | IF57-0317 | 土敷館 | どしだて | 種市第51地割 | 中世 | 城館跡 | 堀跡、探検跡 | 昭和59年度調査 |
| 16 | IF57-1023 | 種市城(平城) | たねいちじょう | 種市第60地割 | 中世 | 城館跡 | 堀跡 | 昭和59年度調査 |
| 17 | IF57-2023 | 種市城(山城) | たねいちじょう | 種市第60地割 | 中世 | 城館跡 | 堀跡、平場 | |
| 18 | IF58-0034 | 小手野伏館 | こてのきさわだて | 種市第51地割 | 中世 | 城館跡 | 堀跡、平場 | 昭和59年度調査 |
| 19 | IF58-0169 | 柳野館 | いわたしだて | 種市第21地割 | 中世 | 城館跡 | 平部、堀跡 | 昭和59年度調査 |
| 20 | IF58-0311 | ゴッソー | ごっさー | 種市第18地割 | 縄文 | 集落跡、弥生集落跡 | 竪穴住居跡、竪穴遺構、竪穴遺構、柱穴状小土坑、土坑、縄文土器(早～晩期)、製土土器、弥生土器、石器 | 昭和20～26、平成6年度～12年度～27年度発掘調査 |
| 21 | IF58-1006 | たけの子 | たけのこ | 種市第21地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器(前・晩期)、製土土器 | |
| 22 | IF58-1205 | 大久保 | おおくほ | 種市第19地割 | 縄文、古代 | 散布地 | 縄文土器(前・後・晩期)、石斧、土師器 | |
| 23 | IF66-0156 | ツノウケ金山 | つノウケきんざん | 種市第70地割 | 近世 | 砂金採取跡 | 石臼 | |
| 24 | IF66-0360 | 小平生原(チナゴ) | ちながうだて | 種市第70地割 | 中世 | 城館跡 | | 昭和59年度調査 |
| 25 | IF67-1131 | 柳野館 | わぎだて | 種市第71地割 | 中世 | 城館跡 | 平部、堀跡、平場 | 昭和59年度調査 |
| 26 | IF67-2146 | 大谷鉄山 | おおやてつざん | 種市第72地割 | 近世 | 製鉄関連 | 鉄滓 | 八ノ瀬大野村鉄山 |
| 27 | IF69-1094 | 西の館 | にしのだて | 種市第8地割 | 縄文、中世 | 散布地、城館跡 | 縄文土器(後期)、石器、土師器 | |
| 28 | IF69-1157 | 柳野館 | しゅうのへだて | 種市第7地割 | 中世 | 城館跡 | 平部、堀跡、平場 | 昭和59年度調査 |
| 29 | IF69-2013 | 西の館 | にしのだて | 種市第7地割 | 中世 | 城館跡 | 土器、堀跡、平場 | 昭和59年度調査 |
| 30 | IF69-2020 | 西館の跡 | にしのだて | 種市第7地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器(晩期)、石器、土器 | |
| 31 | IF69-2041 | 上岡谷 | かみおかや | 種市第7地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器(晩期) | |
| 32 | IF69-2380 | 大平 | おおひら | 種市第3地割 | 縄文、弥生 | 集落跡 | 縄文土器(早・晩期)、弥生土器 | |
| 33 | IF69-2393 | ホツリ貝塚 | ほつりかいづか | 種市第2地割 | 縄文、古代 | 貝塚 | 縄文土器、製土土器、ヤギ、ミルイ、土師器 | |
| 34 | IF77-0201 | 柳野鉄山 | はらぎわてつざん | 種市第74地割 | 近世 | 製鉄関連 | 鉄滓 | |
| 35 | IF77-0207 | 南野鉄山 | みなみのりてつざん | 種市第73地割 | 近世 | 製鉄関連 | 鉄滓 | |
| 36 | IF79-0123 | 小田の沢鉄山 | おだのさわてつざん | 種市第3地割 | 近世 | 製鉄関連 | 鉄滓 | |
| 37 | IF79-0351 | 八木貝塚 | やぎかいづか | 種市第1地割 | 縄文 | 貝塚 | 縄文土器(晩期)、縄縄 | |
| 38 | IF79-0373 | 柳山 | そでやま | 種市第1地割 | 縄文、古墳 | 集落跡 | 縄文土器(中・後期)、石製製造品(古墳時代) | |
| 39 | IF79-1245 | 長原 | ながはら | 小子内第1地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器(前・晩期) | |
| 40 | IF79-1358 | 小子内貝塚 | おこないかいづか | 小字内第5地割 | 縄文 | 貝塚 | 弥生磁器、鉄片、ミルイ、インダミ | |
| 41 | IF79-2344 | 匠ツツ貝塚 | くろまつかいづか | 有家第2地割 | 縄文、古代 | 貝塚 | 縄文土器(後期)、石器、土師器 | |
| 42 | IF89-0329 | 内所戸 | うちかおりど | 有家第3地割 | 縄文 | 集落跡 | 縄文土器(晩期)、石斧 | |
| 43 | IF89-0340 | 上のマッコ | うのまっこ | 有家第5地割 | 縄文 | 集落跡 | 縄文土器(前・後期)、石斧、調子 | 縄縄変変(平成23年度) |
| 44 | IF89-0353 | 有家館 | うけだて | 有家第5地割 | 中世 | 城館跡 | 平部、堀跡(破壊) | 昭和59年度調査、縄縄変変(平成23年度) |
| 45 | IF99-1153 | 芦毛産鉄山 | あしむらたてつざん | 中野第7地割 | 近世 | 製鉄関連 | 鉄滓 | |
| 46 | IG80-0056 | 有家台地 | うけいば | 有家第8地割 | 近世 | 砲台跡跡 | 土器 | 昭和59年度調査 |

第1表 町内の遺跡一覧(1)

| | | | | | | | | |
|----|-----------|-------------|-------------|---------|----------|---------|--|---|
| 47 | IG80-1008 | 大宮Ⅱ | おおみやに | 中野第2地割 | 縄文、弥生 | 散布地 | 縄文土器(早期)、弥生土器 | |
| 48 | IG80-1008 | 大宮Ⅱ | おおみやに | 中野第2地割 | 縄文、弥生 | 集落跡 | 縄文(早・前・晩期)、石器、弥生土器 | |
| 49 | IG80-1063 | 長狭塚 | ながなづか | 中野第2地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | |
| 50 | IG80-2004 | 中野船(船橋・船内堀) | なかのぶね | 中野第4地割 | 中世 | 城址跡 | 平瓦、瓦葺(破損) | 昭和59年度調査 |
| 51 | IG90-0005 | 船内堀 | ふねぶち | 中野第11地割 | 縄文 | 集落跡 | 縄文土器 | 範囲変更(平成23年度) |
| 52 | IG90-0085 | 船内堀 | ふじよしざわ | 中野第7地割 | 縄文 | 集落跡 | 縄文土器(前・晩期)、石刀 | |
| 53 | IF38-1072 | アイヌ森 | あいぬもり | 梅市第39地割 | 縄文、弥生、古代 | 散布地 | 縄文土器(前・晩期)、縄文晩期後期～弥生前期の土器、土器、土師器 | 別記※2、共通遺跡から名称・範囲変更(平成23年度) |
| 54 | 4次番 | - | - | - | - | - | - | 北ノ沢遺跡登録跡(南側・名称変更のため) |
| 55 | IF48-0194 | 平内Ⅱ | ひらないさん | 梅市第34地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器(中期)、磨石 | 別記※2、範囲変更(平成23年度) |
| 56 | IF48-1025 | 石倉 | いしくら | 梅市第37地割 | 縄文、古代 | 散布地 | 縄文土器(後期)、磨石、土師器、土師器 | 別記※2、範囲変更(平成23年度) |
| 57 | IF48-2023 | 豊前 | ひつわり | 梅市第30地割 | 縄文 | 散布地 | 石棒 | |
| 58 | IF56-1358 | ニヤクドク | にきくどく | 梅市第63地割 | 縄文、古代 | 散布地 | 縄文土器(晩期)、土師器、支脚 | |
| 59 | IF57-2323 | 高取Ⅰ | たかとりにち | 梅市第21地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | |
| 60 | IF57-2279 | 高取Ⅱ | たかとりに | 梅市第21地割 | 縄文 | 集落跡 | 縄文土器(中・晩期) | |
| 61 | IF69-0042 | 戸期家 | へるけ | 梅市第11地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器(晩期)、土師 | |
| 62 | IF69-2113 | 向山 | むかやま | 梅市第6地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | |
| 63 | IF68-2337 | 田ノ沢 | たのさわ | 梅市第7地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器(晩期) | |
| 64 | IF89-0378 | 向長塚 | むかながね | 有家第8地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | |
| 65 | IF48-0017 | 平内Ⅱ | ひらないに | 梅市第43地割 | 縄文、弥生、近世 | 散布地、井戸跡 | 聖穴住居跡、屋外炉、土坑、遺状遺構、炭石、溝跡、焼土遺構、縄文土器(早期中世・中期末～後期前期)、弥生土器(前期前半)、土製品、石器、石製品、鉄製品、磨石、鉄貨 | 別記※1～※4、平成11～13年度・23～25年度本発掘調査、範囲変更(平成23年度) |
| 66 | IF79-0119 | 大浜 | おおはま | 梅市第3地割 | 縄文 | 集落跡 | 縄文土器、石器 | |
| 67 | IF69-1109 | 畑 | はたて | 梅市第5地割 | 縄文 | 集落跡 | 縄文土器(前期) | |
| 68 | IF56-2350 | 大沢 | おおさわ | 梅市第66地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | 平成13年度新規発見 |
| 69 | IF38-0098 | 二十一平 | にじゅういちひら | 梅市第41地割 | 古代 | 製塩遺跡 | 製塩土器、土製支脚、土師器 | 別記※2、平成15年度新規発見、範囲変更(平成23年度) |
| 70 | IF59-2161 | 玉川Ⅰ | たまがわいち | 梅市第13地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器(早期) | |
| 71 | IF59-2038 | 玉川Ⅱ | たまがわに | 梅市第14地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器(前期) | |
| 72 | IF69-1126 | 馬場 | ばば | 梅市第7地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | 平成16年度新規発見、範囲変更(平成23年度) |
| 73 | IF89-0314 | 八森 | はちもり | 有家第3地割 | 縄文、奈良 | 集落跡 | 聖穴住居跡、縄文土器、石器、土師器 | 別記※11、平成16年度新規発見、範囲変更(平成23年度)、平成28年度本発掘調査 |
| 74 | IF86-0118 | 向田Ⅱ | むかひだに | 大野第20地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | |
| 75 | IF86-0137 | 向田 | むかひだ | 大野第23地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器(後期)、石器 | |
| 76 | IF86-0144 | 向田Ⅰ | むかひだいち | 大野第20地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器(後期)、石器 | |
| 77 | IF87-1082 | 明戸塚 | あけどで | 大野第29地割 | 中世 | 城址跡 | 平瓦、土器、磨石、平輪 | 昭和59年度調査 |
| 78 | IF87-2100 | 森の渡 | まきのわた | 大野第36地割 | 近世 | 製鉄遺跡 | 鉄滓 | |
| 79 | IF87-2366 | 沢山館(船内堀) | さわやまだて | 大野第49地割 | 中世 | 城址跡 | 御跡、平瓦 | 昭和59年度調査 |
| 80 | IF88-2284 | 牛和ばし林館 | うしわしばしはやしだて | 大野第55地割 | 中世 | 城址跡 | 御跡、平輪 | 昭和59年度調査 |
| 81 | IF96-0272 | たてひら館 | たてひらやかた | 大野第13地割 | 中世 | 城址跡 | 御跡、御跡、平輪 | 昭和59年度調査 |
| 82 | IF96-0387 | 長根 | ながね | 大野第72地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器(後・晩期)、石器 | |
| 83 | IF96-1280 | 船内森館 | ふねもりだて | 大野第10地割 | 中世 | 城址跡 | 御跡、御跡、平輪 | 昭和59年度調査 |
| 84 | IF96-2238 | 橋原Ⅱ | はしはらに | 大野第4地割 | 縄文 | 散布地 | 石器、鏝 | |
| 85 | IF96-2249 | 橋原Ⅰ | はしはらいち | 大野第5地割 | 縄文 | 散布地 | 鏝、石器 | |
| 86 | IF96-2316 | 大野館 | おののだて | 大野第5地割 | 中世 | 城址跡 | 平輪 | 昭和59年度調査 |
| 87 | IF97-0012 | ひともち館 | ひともちだて | 大野第49地割 | 中世 | 城址跡 | 平瓦、御跡、平輪、聖穴 | 昭和59年度調査 |
| 88 | IF97-2055 | 金ケ沢 | かねがさわ | 大野第59地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器(前期) | |
| 89 | IF98-1299 | 阿子木館 | あこぎだて | 阿子木第4地割 | 中世 | 城址跡 | 平瓦、御跡、聖穴 | 昭和59年度調査 |
| 90 | IF07-0168 | 高森Ⅱ | たかもり | 大野第57地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | |
| 91 | IF07-2061 | 上水沢Ⅰ | かみみずさわいち | 赤沢第5地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | |
| 92 | IF07-2188 | 上水沢Ⅱ | かみみずさわに | 赤沢第7地割 | 縄文、弥生 | 集落跡 | 縄文土器(早・晩期)、弥生土器、土製品、石器、アスファルト塊、鉄製品、鉄貨、陶磁器(近・現代) | 別記※7、平成12年度本発掘調査 |
| 93 | IF07-2196 | 上水沢Ⅲ | かみみずさわさん | 赤沢第7地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | |
| 94 | IF07-2204 | 高森Ⅰ | たかもりいち | 赤沢第7地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | |
| 95 | IF07-2272 | 上水沢Ⅳ | かみみずさわよん | 赤沢第7地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | |

第1表 町内の遺跡一覧(2)

| | | | | | | | | | |
|-----|-----------|------------|----------------|--------------|--------------|-------|---------------|--|----------|
| 96 | JF07-2275 | 上水戸V (順丸側) | かみみずさわご | 水戸新7地割 | 中世 | 城跡跡 | 平野 | | 昭和59年度調査 |
| 97 | JF07-2288 | 下水戸I | しもみずさわいら | 水戸第8地割 | 縄文 | 散布地 | 洲川 | | |
| 98 | JF07-2294 | 上水戸II | かみみずさわらく | 水戸第9地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | | |
| 99 | JF08-0067 | 堺内 | つづみない | 大野第57地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | | |
| 100 | JF08-0129 | 日高I | ひなないら | 大野第57地割 | 古代 | 散布地 | 土師器 | | |
| 101 | JF08-0186 | 下帯島I | しもたいてい、まいつ | 帯島第11地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | | |
| 102 | JF08-0221 | 日高II | ひなたに | 阿子木第9地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | | |
| 103 | JF08-0225 | 阿子木 | あこぎ | 阿子木第12地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | | |
| 104 | JF08-1108 | 下帯島II | しもたいてい、まに | 帯島第11地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | | |
| 105 | JF08-1156 | 観音館I | みきだていち | 帯島第5地割 | 中世 | 城跡跡 | 平地、堀跡 | | 昭和59年度調査 |
| 106 | JF08-1199 | 上帯島I | かみたいてい、まいつ | 帯島第8地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | | |
| 107 | JF08-1225 | 二ノ原 | ふたつや | 阿子木第18地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | | |
| 108 | JF08-1254 | 下帯島III | しもたいてい、まさん | 阿子木第18地割 | 古代 | 散布地 | 土師器 | | |
| 109 | JF08-1272 | 下帯島IV | しもたいてい、まよん | 帯島第9地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | | |
| 110 | JF08-1375 | 二ノ原向 | ふたつやむかい | 阿子木第12地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | | |
| 111 | JF08-1398 | 長塚森I | ちようづかもりい ち | 阿子木第12地 割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | | |
| 112 | JF08-2059 | 高森IV | たかもりさん | 帯島第4地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | | |
| 113 | JF08-2073 | 大渡IV | おおわたりよん | 帯島第1地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | | |
| 114 | JF08-2081 | 大渡V (順丸側) | おおわたりご | 帯島第1地割 | 中世 | 城跡跡か? | 平野、堀跡 | | 昭和59年度調査 |
| 115 | JF08-2111 | 観音館 | みきだて | 帯島第4地割 | 中世 | 城跡跡 | 平野、堀跡 | | 昭和59年度調査 |
| 116 | JF08-2117 | 関II | せきぐちいち | 帯島第7地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | | |
| 117 | JF08-2127 | 関III | せきぐちに | 帯島第7地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | | |
| 118 | JF08-2148 | 上帯島II | かみたいてい、まに | 帯島第7地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | | |
| 119 | JF08-2194 | 上帯島III | かみたいてい、まさん | 帯島第7地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | | |
| 120 | JF08-2211 | 上帯島IV | かみたいてい、まよん | 帯島第7地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | | |
| 121 | JF08-2269 | 赤栄I | いやさかいち | 赤栄 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | | |
| 122 | JF08-2287 | 赤栄II | いやさかさん | 赤栄 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | | |
| 123 | JF08-2298 | 赤栄III | いやさかよん | 帯島第7地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | | |
| 124 | JF08-2301 | 赤栄V | いやさかご | 帯島第7地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | | |
| 125 | JF08-2304 | 赤栄VI | いやさからく | 帯島第7地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | | |
| 126 | JF08-2318 | 長塚森II | ちようづかもりい に | 阿子木第12地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 (後期)、甕 | | |
| 127 | JF08-2322 | 赤栄VII | いやさかみな | 赤栄 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | | |
| 128 | JF08-2333 | 赤栄VIII | いやさかちち | 赤栄 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | | |
| 129 | JF08-2337 | 赤栄IX | いやさかじょう | 赤栄 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | | |
| 130 | JF08-2371 | 赤栄X | いやさかじょう | 赤栄 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | | |
| 131 | JF08-2373 | 赤栄XI | いやさかじょう ち | 赤栄 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | | |
| 132 | JF08-2380 | 赤栄XII | いやさかじょう | 帯島第7地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | | |
| 133 | JF09-1022 | 長塚森III | ちようづかもりい ん | 阿子木第12地 割 | 縄文 | 散布地 | 石器 | | |
| 134 | JF09-1051 | 長塚森IV | ちようづかもりい ん | 阿子木第12地 割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | | |
| 135 | JF09-2071 | 赤栄III | いやさかに | 帯島第7地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | | |
| 136 | JF17-0140 | 上水戸III | かみみずさわなな | 水戸第3地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 (後期) | | |
| 137 | JF17-0218 | 下水戸II | しもみずさわに | 水戸第9地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | | |
| 138 | JF17-0296 | 金間部I | かなまゐら | 水戸第12地割 | 近世 | 新鉄関連 | 堀の跡I、鉄滓 | | |
| 139 | JF17-0297 | 金間部II | かなまぶに | 水戸第12地割 | 縄文、古代、 近世 | 散布地 | 縄文土器、土師器、寛永通宝 | | |
| 140 | JF17-0337 | 大渡I | おおわたりいち | 水戸第10地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | | |
| 141 | JF17-0339 | 大渡II | おおわたりに | 水戸第10地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | | |
| 142 | JF17-1022 | 生平I | おいたいらいち | 水戸第2地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | | |
| 143 | JF17-1024 | 生平II | おいたいらに | 水戸第2地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | | |
| 144 | JF17-2003 | 青葉畑I | あおなはたに | 水戸第14地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 (後期) | | |
| 145 | JF17-2027 | 青葉畑 | あおなはた | 水戸第13地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器、石器 | | |
| 146 | JF18-0002 | 大渡III | おおわたりさん | 帯島第2地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | | |
| 147 | JF18-0103 | 帯島開拓地I | たいしまかいた ちいち | 帯島第7地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | | |
| 148 | JF18-0108 | 帯島開拓地II | たいしまかいた ちに | 赤栄 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | | |

第1表 町内の遺跡一覧(3)

| | | | | | | | | |
|-----|-----------|--------|--------------|---------|-------|----------|---|--|
| 149 | 1F18-016 | 香島開拓地Ⅲ | たいし、まかいたくちらん | 徳島第7地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | |
| 150 | 1F18-102 | 大田 | おれた | 水沢第11地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | |
| 151 | 1F37-167 | 塚中山Ⅰ | たいなかやまⅠ | 徳島第41地割 | 縄文 | 散布地 | 石斧 | 調査中2、平成23年度新規発見 |
| 152 | 1F38-1042 | 塚中山Ⅱ | たいなかやまⅡ | 徳島第41地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器、礫器 | 調査中2、平成23年度新規発見 |
| 153 | 1F38-2001 | 角田Ⅱ | かどがわⅡ | 徳島第39地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | 調査中2、平成23年度新規発見 |
| 154 | 1F37-2343 | 田ノ瀬Ⅰ | たのせⅠ | 徳島第42地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器(後期) | 調査中2、平成23年度新規発見 |
| 155 | 1F37-2366 | 菟花Ⅰ | ささはなⅠ | 徳島第43地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | 調査中2、平成23年度新規発見 |
| 156 | 1F38-2053 | 菟花Ⅱ | ささはなⅡ | 徳島第43地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器(後期) | 調査中2、平成23年度新規発見 |
| 157 | 1F37-2379 | 菟花Ⅲ | ささはなⅢ | 徳島第43地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | 調査中2、平成23年度新規発見 |
| 158 | 1F37-2397 | 菟花Ⅳ | ささはなⅣ | 徳島第43地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器、石斧、磁石、礫器 | 調査中2、平成23年度新規発見 |
| 159 | 1F37-2392 | 伝吉Ⅱ | でんきちⅡ | 徳島第43地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器(前期)、石磁 | 調査中2、平成23年度新規発見 |
| 160 | 1F47-0239 | 伝吉Ⅲ | でんきちⅢ | 徳島第44地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | 調査中2、平成23年度新規発見 |
| 161 | 1F47-0238 | 伝吉Ⅳ | でんきちⅣ | 徳島第44地割 | 不明 | 新鉄関連 | 鉄滓 | 調査中2、平成23年度新規発見 |
| 162 | 1F47-0216 | 伝吉Ⅴ | でんきちⅤ | 徳島第44地割 | 不明 | 新鉄関連 | 鉄滓 | 調査中2、平成23年度新規発見 |
| 163 | 1F47-0345 | 北ノ沢Ⅰ | きたのさわⅠ | 徳島第45地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器(中期)、石磁、煎鉢器、石斧、磁石、潤片 | 調査中2、平成23年度新規発見、新調査(平成25年度) |
| 164 | 1F47-0333 | 北ノ沢Ⅱ | きたのさわⅡ | 徳島第45地割 | 縄文、古代 | 散布地 | 縄文土器、土師器 | 調査中2、平成23年度新規発見 |
| 165 | 1F47-0258 | 北ノ沢Ⅲ | きたのさわⅢ | 徳島第45地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | 調査中2、平成23年度新規発見 |
| 166 | 1F47-0390 | 北ノ沢Ⅳ | きたのさわⅣ | 徳島第45地割 | 縄文、古代 | 散布地 | 縄文土器(前期)、土師器 | 調査中2、平成23年度新規発見 |
| 167 | 1F47-0344 | 北ノ沢Ⅴ | きたのさわⅤ | 徳島第45地割 | 不明 | 新鉄関連 | 鉄滓 | 調査中2、平成23年度新規発見 |
| 168 | 1F47-0341 | 北ノ沢Ⅵ | きたのさわⅥ | 徳島第45地割 | 不明 | 新鉄関連 | 鉄滓 | 調査中2、平成23年度新規発見 |
| 169 | 1F47-0257 | 北ノ沢Ⅶ | きたのさわⅦ | 徳島第45地割 | 不明 | 新鉄関連 | 鉄滓 | 調査中2、平成23年度新規発見 |
| 170 | 1F47-0299 | 北ノ沢Ⅷ | きたのさわⅧ | 徳島第45地割 | 不明 | 新鉄関連 | 鉄滓 | 調査中2、平成23年度新規発見 |
| 171 | 1F47-1250 | 北ノ沢Ⅸ | きたのさわⅨ | 徳島第45地割 | 不明 | 新鉄関連 | 鉄滓 | 調査中2、平成23年度新規発見 |
| 172 | 1F47-1138 | 北ノ沢Ⅹ | きたのさわⅩ | 徳島第45地割 | 不明 | 新鉄関連 | 鉄滓 | 調査中2、平成23年度新規発見 |
| 173 | 1F38-2192 | 北平内Ⅰ | きたひらなⅠ | 徳島第38地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器、石斧、礫器 | 調査中2、平成23年度新規発見 |
| 174 | 1F48-0127 | 北平内Ⅱ | きたひらなⅡ | 徳島第38地割 | 縄文、古代 | 散布地 | 縄文土器、土師器 | 調査中2、平成23年度新規発見 |
| 175 | 1F48-0123 | 北平内Ⅲ | きたひらなⅢ | 徳島第38地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | 調査中2、平成23年度新規発見 |
| 176 | 1F48-0121 | 北平内Ⅳ | きたひらなⅣ | 徳島第38地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器(後期)、潤片 | 調査中2、平成23年度新規発見 |
| 177 | 1F48-0110 | 北平内Ⅴ | きたひらなⅤ | 徳島第38地割 | 縄文、弥生 | 散布地 | 縄文土器(後・後期)、縄文時代後期一弥生前期の土器 | 調査中2、平成23年度新規発見 |
| 178 | 1F48-0143 | 北平内Ⅵ | きたひらなⅥ | 徳島第38地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器、石斧、磁石 | 調査中2、平成23年度新規発見 |
| 179 | 1F48-0158 | 南平内 | みなみひらない | 徳島第36地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器(早・晩期)、石斧、磁石 | 調査中2、平成23年度新規発見 |
| 180 | 1F48-0174 | 平内Ⅱ | ひらなⅡ | 徳島第35地割 | 縄文、古代 | 散布地 | 縄文土器(前期)、石斧、磁石、土師器、煎鉢器 | 調査中2、平成23年度新規発見 |
| 181 | 1F48-0197 | 平内Ⅴ | ひらなⅤ | 徳島第35地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器(前期)、石斧、礫器 | 調査中2、平成23年度新規発見 |
| 182 | 1F48-1200 | 南平内Ⅰ | みなみひらないⅠ | 徳島第33地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器(晩期)、煎鉢土器 | 調査中2、平成23年度新規発見 |
| 183 | 1F48-1119 | 南平内Ⅱ | みなみひらないⅡ | 徳島第32地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器、潤片石斧 | 調査中2、平成23年度新規発見 |
| 184 | 1F48-1126 | 南平内Ⅲ | みなみひらないⅢ | 徳島第32地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器、潤片 | 調査中2、平成23年度新規発見 |
| 185 | 1F48-0041 | 西平内Ⅰ | にしひらないⅠ | 徳島第37地割 | 縄文、弥生 | 散布地 | 竪穴住居跡、竪穴状遺構、竪立柱建物跡、陥し穴状遺構、土坑、埴土遺構、切跡、埋設土器、柱穴、配石遺構、集石遺構、敷地層、縄文土器(早・後期)、弥生土器(後期)、石斧、土製品、石製品 | 調査中2・串10、平成23年度新規発見、平成26年度・27年度本発掘調査、平成28年度ハンドブック・リング調査、総発掘見(平成29年度) |
| 186 | 1F48-1040 | 西平内Ⅱ | にしひらないⅡ | 徳島第37地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器(前期)、石磁 | 調査中2、平成23年度新規発見 |
| 187 | 1F48-1115 | 東平内Ⅰ | ひがしひらないⅠ | 徳島第34地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器、石斧、磁石、礫器、潤片 | 調査中2、平成23年度新規発見 |
| 188 | 1F48-1039 | 東平内Ⅱ | ひがしひらないⅡ | 徳島第34地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | 調査中2、平成23年度新規発見 |
| 189 | 1F48-1080 | 東平内Ⅲ | ひがしひらないⅢ | 徳島第34地割 | 不明 | 新鉄関連 | 珪石、鉄滓 | 調査中2、平成23年度新規発見 |
| 190 | 1F47-1380 | 徳沢Ⅰ | うばさわⅠ | 徳島第47地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器(後期)、石磁、石斧、潤片 | 調査中2、平成23年度新規発見 |
| 191 | 1F47-1288 | 徳沢Ⅱ | うばさわⅡ | 徳島第47地割 | 縄文、古代 | 散布地 | 縄文土器、石斧、土師器 | 調査中2、平成23年度新規発見 |
| 192 | 1F47-1360 | 徳沢Ⅲ | うばさわⅢ | 徳島第47地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器(前・後期)、煎鉢器、石斧、潤片、古銭 | 調査中2、平成23年度新規発見 |
| 193 | 1F47-1342 | 徳沢Ⅳ | うばさわⅣ | 徳島第47地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器(中期)、煎鉢器、ビエヌスキース、潤片 | 調査中2、平成23年度新規発見 |
| 194 | 1F48-1197 | 南川尻 | みなみかわしり | 徳島第28地割 | 縄文 | 新築跡、杉炭庫跡 | 竪穴住居跡、土坑、陥し穴状遺構、焼土、草席、縄文土器、石器 | 調査中2、平成25年度新規発見、平成26年度・28年度本発掘調査 |
| 195 | 1F48-2128 | サニヤⅠ | さんいやⅠ | 徳島第25地割 | 縄文 | 散布地、井堀跡 | 竪穴住居跡、陥し穴状遺構、土坑、埴土遺構、縄文土器、石器、弥生土製品 | 調査中9・串13・串17、平成23年度新規発見、平成27年度・28年度本発掘調査 |

第1表 町内の遺跡一覧(4)

| | | | | | | | | |
|-----|-----------|-------|-----------|------------|----------|----------|--------------------------------|-------------------------------------|
| 196 | IF58-0288 | 北風塚 | きたかみか | 種市第18地割 | 縄文 | 集落跡、貯風場跡 | 竪穴住居跡、陥し穴状遺構、土坑、土器、縄文土器(後期)、石器 | 昭和42年12、平成25年度新規発見、平成27年度・29年度本発掘調査 |
| 197 | IF58-1334 | 熊鷹遺跡 | かみかほまに | 種市第13地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器(後期)、石器 | 平成25年度新規発見 |
| 198 | IF58-4399 | 熊鷹遺跡1 | かみかほまいちう | 種市第13地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器、石器 | 平成25年度 新規発見、縄文要素(平成29年度) |
| 199 | IF69-1199 | 畑中 | しゅうのへ | 種市第5地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器、石器 | 平成25年度新規発見 |
| 200 | IF69-2273 | 小畑ノ沢 | こがのさわ | 種市第3地割 | 縄文 | 散布地 | 石器 | 平成25年度新規発見 |
| 201 | IF79-1217 | 南八木 | みなみやぎ | 種市第1地割 | 平安 | 新鉄関連 | 沼門、鉄滓 | 平成25年度新規発見 |
| 202 | IF89-1394 | 下河 | しもむかひ | 中野第1地割 | 縄文、法外 | 貯風場跡 | 陥し穴状遺構、土坑、縄文土器、法外土器 | 昭和48年、平成25年度 新規発見、平成26年度本発掘調査 |
| 203 | IF89-2323 | 中野城内 | なかのじょうない | 中野第1地割 | 縄文 | 貯風場跡 | 陥し穴状遺構、土坑、土器、石器 | 昭和44年、平成25年度 新規発見、平成29年度本発掘調査 |
| 204 | IF89-1322 | 黒沢 | くろさか | 有家第9地割 | 縄文 | 集落跡 | 陥し穴状遺構 | 昭和45年、平成26年度 新規発見、平成26年度本発掘調査 |
| 205 | IF48-2231 | サンニヤⅡ | さんになに | 種市第25地割 | 縄文、古代 | 集落跡 | 竪穴住居跡、土坑、陥し穴状遺構、土器、石器 | 昭和45・46年、平成26年度 新規発見、平成26年度本発掘調査 |
| 206 | IF58-1333 | 南風塚1 | みなみかみかほに | 種市第16・17地割 | 縄文 | 集落跡 | 竪穴住居跡、溝跡、土坑、陥し穴状遺構、縄文土器、石器 | 昭和45年、平成26年度 新規発見、平成26年度本発掘調査 |
| 207 | IF57-0174 | 畑中 | たの | 種市第53地割 | 古代 | 散布地、新鉄関連 | 製塩土器(古代)、鉄滓 | 平成27年度 新規発見、新鉄関連は時代不明 |
| 208 | IF59-2021 | 北玉川 | きたたまがわ | 種市第14地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器 | 平成27年度 新規発見 |
| 209 | IF37-2343 | 田ノ原Ⅱ | たのはらに | 種市第44地割 | 縄文 | 貯風場跡、散布地 | 陥し穴状遺構、縄文土器、フレイタ | 平成25年度 新規発見 |
| 210 | IF58-0245 | 花津内 | あなつない | 種市第20地割 | 縄文 | 貯風場跡、散布地 | 陥し穴状遺構、土坑、焼土、土器碎片 | 平成28年度 新規発見 |
| 211 | IF67-2355 | 松ヶ沢Ⅰ | まつがさわちう | 種市第73地割 | 縄文 | 散布地 | 土器、石器 | 平成28年度 新規発見 |
| 212 | IF58-2312 | 熊鷹遺跡Ⅱ | かみかほまさん | 種市第15地割 | 縄文 | 散布地 | 陥し穴状遺構 | 平成28年度 新規発見 |
| 213 | IF79-0012 | 熊鷹遺跡Ⅲ | つづいし | 種市第4地割 | 縄文 | 散布地 | 縄文土器、石器 | 平成29年度 新規発見 |
| 214 | IF86-2265 | 新田 | しんであ | 大野第14地割 | 近世 | 新鉄関連 | 鉄滓 | 平成29年度 新規発見 |
| 215 | IF85-2335 | 一本松向Ⅰ | いっぴんまつむかひ | 大野第15地割 | 縄文、古代、近世 | 散布地、新鉄関連 | 縄文土器、土器片、鉄滓 | 平成29年度 新規発見、新鉄関連は時代不明 |
| 216 | IF86-2053 | 一本松向Ⅱ | いっぴんまつむかひ | 大野第15地割 | 縄文、近世 | 散布地、新鉄関連 | 縄文土器、鉄滓 | 平成29年度 新規発見、新鉄関連は時代不明 |
| 217 | IF58-4170 | 熊鷹 | いびたし | 種市第21地割 | 縄文 | 貯風場跡 | 陥し穴状遺構 | 平成29年度 新規発見 |
| 218 | IF48-2250 | サンニヤⅢ | さんになにさん | 種市第25地割 | 縄文 | 貯風場跡 | 陥し穴状遺構、縄文土器、石器 | 昭和42年、平成29年度本発掘調査 |
| 219 | IF67-2265 | 松ヶ沢Ⅱ | まつがさわに | 種市第74地割 | 不明 | 新鉄関連 | 鉄滓 | 平成29年度 新規発見 |
| 220 | IF99-0251 | 下河Ⅱ | しもむかひに | 中野第1地割 | 縄文 | 貯風場跡 | 陥し穴状遺構、土坑 | 平成30年度 新規発見 |

《備考欄の文献について、それぞれ次のように略した》

- 【別記書1】 若手県種市町教育委員会 2004『平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』 種市町埋蔵文化財調査報告書第1集
- 【別記書2】 若手県種市町教育委員会 2005『種市町内遺跡詳細分布調査報告書』 種市町埋蔵文化財調査報告書第2集
- 【別記書3】 若手県洋野町教育委員会 2013『平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』 洋野町埋蔵文化財調査報告書第1集
- 【別記書4】 若手県洋野町教育委員会 2015『平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』 洋野町埋蔵文化財調査報告書第2集
- 【別記書5】 若手県洋野町教育委員会 2017『ゴッナー遺跡発掘調査報告書』 洋野町埋蔵文化財調査報告書第3集
- 【別記書6】 (財)若手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1996・2001『ゴッナー遺跡発掘調査報告書』 若手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第238集・第357集
- 【別記書7】 若手県久慈地方振興局久慈農村整備事務所(財)若手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2002『上水Ⅱ遺跡発掘調査報告書』 若手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第391集
- 【別記書8】 (公財)若手県文化振興事業団 2015『平成26年度発掘調査報告書 南川尻遺跡 下向遺跡 沼袋Ⅱ遺跡 沼袋Ⅲ遺跡 八幡沖遺跡14ヶ調査概観(39遺跡)』 若手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第647集
- 【別記書9】 (公財)若手県文化振興事業団 2016『平成27年度発掘調査報告書 サンニヤ遺跡 房の沢Ⅲ遺跡 白石遺跡 14ヶ調査概観33遺跡』 若手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第661集
- 【別記書10】 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・(公財)若手県文化振興事業団 2017『西平Ⅰ遺跡発掘調査報告書』 若手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第673集
- 【別記書11】 (公財)若手県文化振興事業団 2017『平成28年度発掘調査報告書 岩洞Ⅰ遺跡 柳洞Ⅳ遺跡 八森遺跡 14ヶ調査概観(28遺跡)』 若手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第676集
- 【別記書12】 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・(公財)若手県文化振興事業団 2018『北鹿雄遺跡発掘調査報告書』 若手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第686集
- 【別記書13】 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・(公財)若手県文化振興事業団 2018『サンニヤⅡ遺跡発掘調査報告書』 若手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第687集
- 【別記書14】 (公財)若手県文化振興事業団 2018『平成29年度発掘調査報告書 岩洞Ⅱ・Ⅲ遺跡 和野新築神社遺跡 北野遺跡 木戸場遺跡 中野城内遺跡 沼里遺跡 根沢Ⅵ穴Ⅳ遺跡 耳取Ⅰ遺跡 千賀城遺跡 14ヶ調査概観(23遺跡)』 若手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第692集
- 【別記書15】 若手県教育委員会 平成28年3月『若手県内遺跡発掘調査報告書(平成26年度 復興関係)』 若手県文化財調査報告書第146集
- 【別記書16】 若手県教育委員会 平成29年3月『若手県内遺跡発掘調査報告書(平成27年度 復興関係)』 若手県文化財調査報告書第149集
- 【別記書17】 若手県教育委員会 平成30年3月『若手県内遺跡発掘調査報告書(平成28年度 復興関係)』 若手県文化財調査報告書第152集

第1表 町内の遺跡一覧(5)

IV. 遺跡の地形と地質

日本地質学会会員 松山 力

1. 地学的環境概要

下向Ⅱ遺跡は、洋野町東南部のJR八戸線「りくちゅうなかの駅（東方の太平洋岸から約120～130m）」の西南西方3.7km地点の周囲に立地する遺跡である。

遺跡の北方には、西方から東北東に下り、北方約1km付近を屈曲しながら北東方に流れる有家川と、南方には約2km付近を東に下り、途中から向きを北東に変えて屈曲して流れる高家川があって、最下流部は久慈市との町境となっている。

河川の間は、東北東に高度を低めながら、北北西から南南東に続く丘陵地の一部で、そのうちの両川に挟まれた丘陵地のうち、海拔高度140～200m部分の起伏は緩やかで、両川の谷壁を除けば、内部をほぼ北東方に流れる2小川の谷壁も大部分が未発達で、急斜面は少なく、縄文時代以降の人々にとって、伸びやかな生活の適地であったと思われる。

遺跡はこの丘陵地の西縁にある標高200mの平坦面の北に下る平頂丘陵地にある。

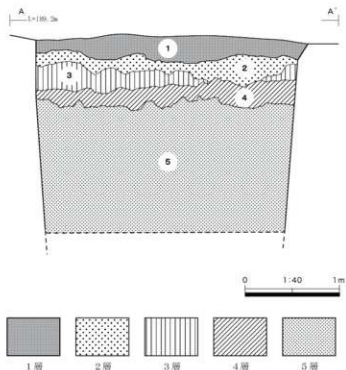
この地域の地質基盤は、中生代前期白亜紀に形成されたとされる花崗閃緑岩で、各種報告では、その上を第四紀更新世以降の火山灰層や軽石層が覆うとされている。

2. 遺跡の土・地質

調査では、より古い時期の遺構・遺物の存在可能性の確認を兼ねて、2カ所の深掘りが行われたが、両箇所の比較の結果、土層序に格別の相違が認められなかったため、より鮮明な一箇所に限って土層序の詳細な観察を行い、土層を上から順に5層に区分し、土層の断面図を作成した。第4図がそれである。

1層は、厚さ10～27cmの表土に相当する砂質暗褐色（10YR3/3）土層で、植生の毛根が密集している。軽石その他の混合物はほとんど認められなかった。

2層は、厚さ5～32cmの暗褐色（10YR3/4）砂質土層である。砂粒の粒径はほぼ1～2mmであるが、最大4mmの風化細礫や粒径最大10mmまでの明黄褐色（10YR7/6）の軽石粒が散らばっている。



第4図 深掘1土層序

3層は、厚さ0～30cmのにおい黄褐色（10YR4/3）砂質土層である。ややしまった土層で、長径4～7cm（最大12cm）の褐色（10YR4/4）砂質土塊が混じり合っている。

4層は、厚さ9～28cmの黄褐色（10YR5/6）砂質土層であるが、土層中に軽石混じり火山灰塊が断続している。火山灰塊はにおい黄褐色（10YR6/4）で最大長径（横長）26cm、十和田八戸火山灰に相当する。その他、火山灰断続の間々に、横長が最大56cmの褐色（10YR4/6）土層が挟まれ、その中には、長径数～35mmの黄橙色（7.5YR7/8～10YR7/8）火山灰塊が散らばっている。

5層は、十和田八戸火山灰の降下直前までの地表直下（そこまでの人々の生活面下）に相当する土層である。厚さが137cm以上の砂質粘土質シルト層である。上限部は厚さ0～22cmの灰黄褐色（10YR6/2）土層で、上辺が炭質物を含んで黒みを帯びた風化帯となっている。その下方は、色調が、におい褐色（10YR6/2）土層から下方へ、黄褐色（10YR6/4）土層となり、さらににおい黄褐色（10YR5/4）土層へと変化している。

5層については、粒度が水成あるいは風成で淘汰された痕跡がなく、無層理塊状で均質の層相を呈していて、下位の閃緑岩体との関係を確認できなかった。当初、十和田八戸火山灰層の下位には、十和田火山起源の火山砕屑物層を挟む、いわゆるローム層の存在を予想していたが、今後の周辺域を含めた精査による確認を、痛感させられた。

主な引用・参考文献と付言

- 大池昭二・七崎 修・松山 力、1970、八戸平原地区地質調査報告書、東北農政局
松山 力・大池昭二、1986、十和田火山噴出物と火山活動、十和田科学博物館、4号

V. 下向II遺跡の自然科学分析

バリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

岩手県洋野町中野地区に所在する下向II遺跡では、発掘調査の結果、縄文時代のTピット、土坑などが検出されている。

本分析調査では、縄文時代の貯蔵穴の可能性が指摘されている土坑内堆積物を対象とし、内容物や周辺の植生(特にイネ科)に関する情報を得る目的で、植物珪酸体分析を実施する。

また、調査区に設定された深掘りトレンチの基本土層中に確認された、炭化材が散在し、やや暗色を呈する土層を対象として、花粉分析、植物珪酸体分析、放射性炭素年代測定を実施し、堆積物の年代や当該期の植生などを推定する。

さらに、調査区内に設定された深掘りトレンチのうち、黒ボク土からロームまでが確認されている基本土層の層序を対象として、テフラ分析(テフラ検出同定、重鉱物・火山ガラス比、屈折率測定)を行い堆積物中のテフラについてのデータを作成した上で、既知のテフラとの対比を行い、層序に関する情報を得る。

以下に分析対象試料、分析方法、結果、考察の順に述べる。

1. 試料

試料は弊社技師1名が、2019年4月18日に発掘調査現場に赴き採取した。Tピット1基、土坑2基、深掘りトレンチで観察される基本層序1箇所を対象として試料採取を実施した。Tピット、土坑については堆積物の観察を行い、観察に基づき分層された各層より試料を採取した。

Tピット(TP-1)では各層で4点の試料を採取した。

土坑SK-1、SK-2からはそれぞれ4点の試料を採取した。

基本層序は観察および分層の結果から、黒ボク土層については5cm連続で、1～15の計15点の試料を採取した。ローム層については分層された各層から16～22の7点の試料を採取した。また、ローム層中の18および19を採取した層付近には、炭化材の集中が確認された。観察された炭化材のうち、大きく状態の良いものについて、CW1～CW7の計7点を採取した。

(1) 放射性炭素年代測定

試料は、深掘り1断面中部に認められた暗色化した層位に散在する炭化材から採取された炭化材片6点である。採取位置を図1に示す。測定は、これらを一括して試料1点として行う。

(2) 花粉分析

花粉分析の試料は、深掘り1より採取された試料番号18の計1点である。上述した炭化材片の散在する層位である。

(3) 植物珪酸体分析

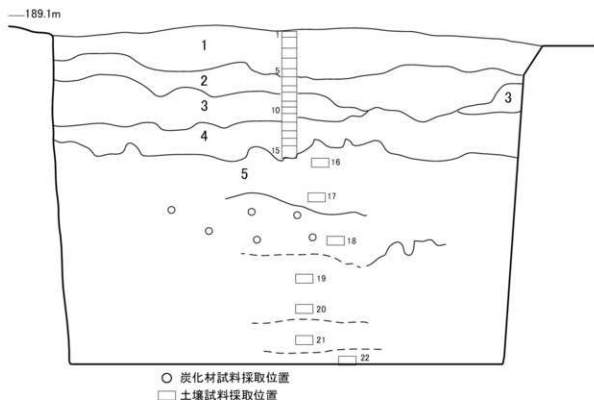
土坑の試料として、SK-1の最下層(試料番号3)が選択された。また、比較試料として深掘り1から採取された花粉分析と同一の土壌試料(試料番号18)が選択された。

(4) テフラ分析

層序対比のための試料は、深掘り1、TP-1W、SK-1の3箇所の断面から採取された。

・深掘り1

試料は、6、8、10、12、14、16、18、19、21、22の10点を対象とした。試料採取層位を第5図に示す。断面



第5図 深掘1断面試料採取位置

の層相から、1層と2層は黒ボク土層、3層は漸移層、4層はローム層最上部に相当する。

・TP-1W

試料は、試料番号4の1点である。

・SK-1

試料は、試料番号3の1点である。

2. 分析方法

(1) 放射性炭素年代測定

試料は、塩酸 (HCl) により炭酸塩等酸可溶成分を除去、水酸化ナトリウム (NaOH) により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、塩酸によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する (酸・アルカリ・酸処理 AAA:Acid Alkali Acid)。今回の試料は脆弱で、かつ分析量が少ないため、十分な炭素を回収するため、アルカリの濃度を薄く (0.05mol/L) して試料の損耗を防ぐ (AaA と記載)。

試料の燃焼、二酸化炭素の精製、グラファイト化 (鉄を触媒とし水素で還元する) は Elementar 社の vario ISOTOPE cube と Ionplus 社の Age3 を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を NEC 社製のハンドプレス機を用いて内径 1mm の孔にプレスし、測定試料とする。

測定はタンデム加速器をベースとした ^{14}C -AMS 専用装置 (NEC 社製) を用いて、 ^{14}C の計数、 ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)、 ^{14}C 濃度 ($^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$) を測定する。AMS 測定時に、米国国立標準局 (NIST) から提供される標準試料 (HOX-II)、国際原子力機関から提供される標準試料 (IAEA C6 等)、バックグラウンド試料 (IAEA-C1) の測定も行う。

$\delta^{13}\text{C}$ は試料炭素の ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (‰) で表したものである。放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5568 年を使用する。また、測定年代は 1950 年を基点とした年代 (BP) であり、誤差は標準偏差 (One Sigma68%) に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う (Stuiver & Polach 1977)。今回は、 ^{14}C 濃度が 1950 年よりも高いため、 F^{14}C の値を記し、この値を用いて暦年校正を行う。暦年校正に用いるソフトウェアは、Oxcal4.3 (Bronk2009) を用いる。校正曲線は北半球中緯度地域の 1950 年以降の ^{14}C 濃度を示すデータセット NH22 (Hua et al.2013) を用いる。

(2) 花粉分析

試料約 10g について、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液 (臭化亜鉛、比重 2.3) による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス (無水酢酸 9:濃硫酸 1 の混合液) 処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作製し、400 倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。同定は、当社保有の現生標本や鳥倉 (1973)、中村 (1980)、三好ほか (2011) 等を参考にする。

結果は同定・計数結果の一覧表として表示する。表中で複数の種類をハイフンで結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。

(3) 植物珪酸体分析

各試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法 (ポリタングステン酸ナトリウム、比重 2.5) の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、ブリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。400 倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科薬部 (薬身と薬精) の薬部短細胞に由来した植物珪酸体 (以下、短細胞珪酸体と呼ぶ) および薬身機動細胞に由来した植物珪酸体 (以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ) を、近藤 (2010) の分類を参考に同定し、計数する。

分析の際には、分析試料の乾燥重量、プレパラート作成に用いた分析残渣量を正確に計量し、乾土 1g あたりの植物珪酸体含量 (同定した数を乾土 1g あたりの個数に換算) を求める。

結果は、植物珪酸体含量の一覧表で示す。

(4) テフラ分析

・テフラの検出同定

試料約 20 g を蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。

火山ガラスは、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の 3 タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破砕片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた繊維束状のものとする。

・重鉱物火山ガラス比

試料より約 40g を採取し、水を加え、超音波洗浄装置を用いて粒子を分散し、250 メッシュの分析篩上にて水洗して粒径が 1/16mm より小さい粒子を除去する。乾燥させた後、篩別して、得られた粒径 1/4mm/1/8mm の砂分を、ポリタングステン酸ナトリウム (比重約 2.96 に調整) により重液分離し、得られた重鉱物を偏光顕微鏡下にて 250 粒に達するまで同定する。同定の際、不透明な粒については、斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するもののみを「不透明鉱物」とする。「不透明鉱物」以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒は「その他」とする。

一方、重液分離により得られた軽鉱物分については、火山ガラスとそれ以外の粒子を、偏光顕微鏡下にて 250 粒に達するまで計数し、火山ガラスの量比を求める。火山ガラスは、その形態によりバブル型、中間型、軽石型の 3 つの型に分類する。各型の形態は、バブル型は薄手平板状あるいは泡のつぎ目をなす部分である Y 字状の高

まりを持つもの、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは塊状のもの、軽石型は表面に小気泡を非常に多く持つ塊状および気泡の長く伸びた繊維束状のものとする。

・屈折率測定

さらに火山ガラスおよび斜方輝石については、その屈折率を測定することにより、テフラを特定するための指標とする。屈折率の測定は、古澤（1996）のMAIOTを使用した温度変化法を用いた。

3. 結果

(1) 放射性炭素年代測定

結果を第2表、第6図に示す。前処理は、試料の量が少なく、かつ脆弱であったため、アルカリ処理を定法の五百分の一（0.05mol/L）で行っている。グラファイトは、年代測定を行うのに十分な量が回収されている。今回の測定結果は、 40186 ± 240 BPである。

暦年較正は、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が5568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、その後訂正された半減期（ ^{14}C の半減期 5730 ± 40 年）を較正することによって、暦年代に近づける手法である。測定誤差 2σ の暦年代は、44341 ~ 43255 calBPである。

(2) 花粉分析

結果を第3表に示す。深掘1の試料番号18は分析残渣が非常に少なく、含まれる花粉化石も非常に少ない。わずかに認められた花粉化石は、木本花粉のモミ属、マツ属、スギ属、クリ属、シイ属、ニレ属—ケヤキ属、草本花粉のイネ科、カヤツリグサ科のみである。なお、保存状態は普通程度であった。

(3) 植物珪酸体分析

結果を第4表に示す。

各試料からは植物珪酸体が検出されるものの、保存状態が悪く、表面に多数の小孔（溶食痕）が認められる。また検出個数と分類群も少ない。

SK-1の試料番号3および比較試料とした深掘1の試料番号18では、いずれもクマザサ属を含むタケ亜科やイチゴツナギ亜科、分類群が明確にならない不明が100個/g未満～300個/g程度の含量である。

(4) テフラ分析

テフラ分析の結果を第5表に、重鉱物火山ガラス分析結果を第6表および第7図に示し、火山ガラスの屈折率測定結果を第8図に、斜方輝石の屈折率測定結果を第9図に示す。以下に各地点のテフラ分析結果と各試料の火山ガラスの屈折率について述べる。

・深掘1

スコリアは試料番号22からのみ検出されている。スコリアは、最大径約0.6mm、黒色で発泡不良のスコリアが多く、他に黒色で発泡やや不良、灰黒色で発泡やや不良などのスコリアも混在する。

火山ガラスは、すべての試料から検出されているが、試料によって量比が異なる。火山ガラスは、試料番号6～12、16、19～22は、無色透明の軽石型およびバブル型が微量～きわめて微量含まれる。試料番号14は無色透明の軽石型およびバブル型が多量含まれる。試料番号18は、無色透明の軽石型およびバブル型が中量含まれる。

軽石は、試料番号6、8、10、14から検出されている。試料番号14には多量、試料番号10には少量、試料番号6、8、12は微量含まれる。試料番号14の軽石は最大粒径3.0mmという粗粒の軽石であり、色調は白色を呈し、発泡はやや良好なものが多く、次いで良好のものが多く、やや不良のものも混在する。試料番号10の軽石は最大粒径2.0mmであり、色調は白色を呈し、発泡やや良好～良好のものが混在する。試料番号6、8、12は、白色で発泡やや不良で、発泡良好の軽石が微量混在する。いずれの試料の軽石も、斜方輝石または角閃石の斑晶を包有する。

・TP-1W

試料番号4からは、スコリアは認められなかった。火山ガラスは、無色透明の軽石型およびバブル型が微量含

まれる。軽石は、中量含まれ、最大粒径 1.5mm であり、色調は白色を呈し、発泡やや良好のものを主体とし、良好のものが混在する。斜方輝石または角閃石の斑晶を包有する。

・SK-1

試料番号 3 からは、スコリアは認められなかった。火山ガラスは、無色透明の軽石型およびバブル型が微量含まれる。軽石は、少量含まれ、最大粒径 1.1mm であり、色調は白色を呈し、発泡やや良好のものを主体とし、良好のものが混在する。斜方輝石または角閃石の斑晶を包有する。

| 試料名 | 種別/性状 | 処理法 | $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ | 年代値 (BP) | | 確率% | Code No. | |
|-----|-------|-----------------|---------------------------------|----------|---------|------|-----------|---------|
| W7 | 炭化材 | 0.05mol/L (AaA) | -25.7976±0.39 | 44341 | - 43255 | 95.4 | pal-12154 | 25627-1 |

1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。

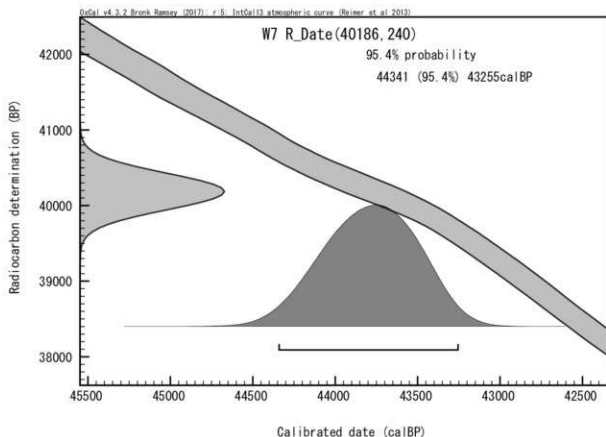
2) 付記した誤差は、測定誤差 σ (測定値の68.2%が入る範囲) を年代値に換算した値。

3) AaAは、アルカリの濃度を薄くした処理を示す。

4) 暦年の計算には、Oxcal v4.3.2を使用

5) 統計的に真の値が入る確率は、 σ が68.2%、 2σ が95.4%である

第2表 放射性炭素年代測定結果



第6図 放射性炭素年代測定結果

| 種 類 | 深掘1 |
|----------|-----|
| | 18 |
| 木本花粉 | |
| モミ属 | 1 |
| マツ属 | 1 |
| スギ属 | 1 |
| クリ属 | 7 |
| シイ属 | 2 |
| ニレ属—ケヤキ属 | 2 |
| 草本花粉 | |
| イネ科 | 1 |
| カヤツリグサ科 | 1 |
| シダ類孢子 | |
| シダ類孢子 | 7 |
| 合 計 | |
| 木本花粉 | 14 |
| 草本花粉 | 2 |
| シダ類孢子 | 7 |
| 合計 | 23 |

第3表 花粉分析結果

| 分類群 | (個/g) | |
|--------------|-----------|-----------|
| | 深掘1 18 | SK-1 3 |
| イネ科葉部短細胞珪酸体 | | |
| クマザサ属 | 100 | 100 |
| タケ亜科 | <100 | <100 |
| イチゴツナギ亜科 | <100 | <100 |
| 不明 | <100 | 100 |
| イネ科葉身機動細胞珪酸体 | | |
| クマザサ属 | 100 | 200 |
| タケ亜科 | 200 | 200 |
| 不明 | 300 | 200 |
| 合 計 | | |
| イネ科葉部短細胞珪酸体 | 400 | 300 |
| イネ科葉身機動細胞珪酸体 | 600 | 500 |
| 植物珪酸体含量 | 1,000 | 800 |

含量は、10の位で丸めている(100単位にする)

合計は各分類群の丸めない数字を合計した後に丸めている

<100:100個/g未滿

第4表 植物珪酸体含量

| 層名 | 試料番号 | スコリア | | | 火山ガラス | | 軽石 | | | 備考 |
|-------|------|------|----------------|------|-------|--------------|------|--------------|------|----|
| | | 量 | 色調・発泡度 | 最大粒径 | 量 | 色調・形態 | 量 | 色調・発泡度 | 最大粒径 | |
| 深掘1 | 6 | — | | | + | cl·pm>cl·bw | + | W·sg~W·g | 1.4 | |
| 深掘1 | 8 | — | | | + | cl·pm>cl·bw | + | W·sg~W·g>W·b | 1.3 | |
| 深掘1 | 10 | — | | | + | cl·pm>cl·bw | ++ | W·sg~W·g | 2.0 | |
| 深掘1 | 12 | — | | | (+) | cl·pm>cl·bw | + | W·sg | 1.4 | |
| 深掘1 | 14 | — | | | ++++ | cl·pm>cl·bw | ++++ | W·sg~W·g>W·b | 3.0 | |
| 深掘1 | 16 | — | | | + | cl·pm>cl·bw | — | | | |
| 深掘1 | 18 | — | | | +++ | cl·pm>cl·bw | — | | | |
| 深掘1 | 19 | — | | | (+) | cl·pm,cl·bw | — | | | |
| 深掘1 | 21 | — | | | (+) | cl·pm,cl·bw | — | | | |
| 深掘1 | 22 | ++ | B·b>B·sb>GB·sb | 0.6 | (+) | cl·pm,cl·bw | — | | | |
| TP-1W | 4 | — | | | +++ | cl·pm>>cl·bw | + | W·sg~W·g | 1.5 | |
| SK-1 | 3 | — | | | ++ | cl·pm>>cl·bw | + | W·sg~W·g | 1.1 | |

凡例 ー含まれない、(+)きわめて微量、+微量、++少量、+++中量、++++多量。

B:黒色、GB:灰黒色。

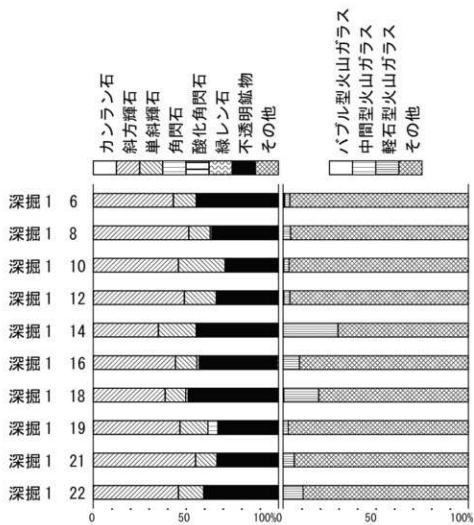
g:良好、sg:やや良好、Sb:やや不良、b:不良。最大粒径はmm。

cl:無色透明、bw:バブル型、pm:軽石型。

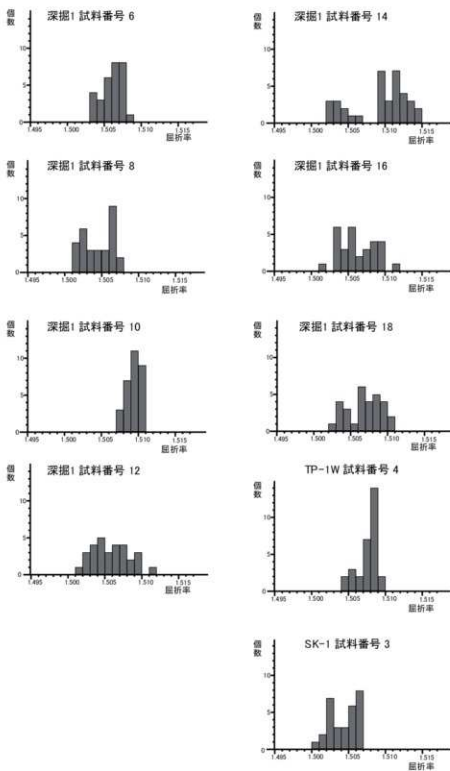
第5表 テフラ分析結果

| 試料番号 | カンラン石 | 斜方輝石 | 単斜輝石 | 角閃石 | 酸化角閃石 | 緑閃石 | 不透明鉱物 | その他 | 合計 | バブル型火山ガラス | 中間型火山ガラス | 軽石型火山ガラス | その他 | 合計 |
|--------|-------|------|------|-----|-------|-----|-------|-----|-----|-----------|----------|----------|-----|-----|
| 深掘1 6 | 0 | 108 | 31 | 1 | 0 | 0 | 110 | 0 | 250 | 1 | 1 | 7 | 241 | 250 |
| 深掘1 8 | 0 | 129 | 29 | 2 | 0 | 0 | 89 | 1 | 250 | 0 | 0 | 10 | 240 | 250 |
| 深掘1 10 | 0 | 115 | 63 | 0 | 0 | 0 | 71 | 1 | 250 | 1 | 0 | 7 | 242 | 250 |
| 深掘1 12 | 0 | 123 | 43 | 1 | 0 | 0 | 83 | 0 | 250 | 1 | 0 | 8 | 241 | 250 |
| 深掘1 14 | 0 | 88 | 51 | 0 | 0 | 0 | 111 | 0 | 250 | 0 | 0 | 74 | 176 | 250 |
| 深掘1 16 | 0 | 111 | 29 | 3 | 0 | 0 | 105 | 2 | 250 | 0 | 0 | 22 | 228 | 250 |
| 深掘1 18 | 0 | 97 | 28 | 3 | 0 | 0 | 122 | 0 | 250 | 0 | 1 | 47 | 202 | 250 |
| 深掘1 19 | 0 | 117 | 38 | 13 | 0 | 0 | 82 | 0 | 250 | 0 | 0 | 7 | 243 | 250 |
| 深掘1 21 | 0 | 138 | 29 | 0 | 0 | 0 | 83 | 0 | 250 | 0 | 0 | 15 | 235 | 250 |
| 深掘1 22 | 0 | 115 | 34 | 0 | 0 | 0 | 101 | 0 | 250 | 0 | 0 | 27 | 223 | 250 |

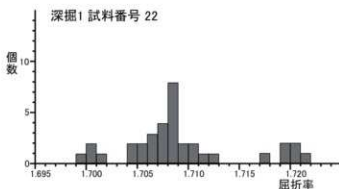
第6表 重鉱物火山ガラス比分析結果



第7図 重鉱物火山ガラス比



第8図 火山ガラス屈折率



第9図 斜方輝石の屈折率

4. 考察

(1) 植生について

深掘1から採取された試料番号18では、花粉化石はほとんど検出されず、古植生推定のための定量解析を行うことができなかった。花粉化石・シダ類胞子の産出状況が悪い場合、元々取り込まれる花粉量が少なかった、あるいは、取り込まれた花粉が消失した、という2つの可能性があげられる。本試料では、植物遺体由来する分析残渣が少ないことから、もともと取り込まれにくかったこと、取り込まれた花粉やシダ類胞子が分解消失したことの、両方であった可能性が高い。

検出された花粉化石のうち、木本類ではクリ属がやや多く認められる。クリ属は虫媒花で、風媒花のように広範囲に花粉を散布する種類ではない。このクリ属が多く認められることを踏まえると、調査地周辺のごく近傍にクリ属が生育していた可能性がある。その他ではモミ属、ツガ属、スギ属などの針葉樹、シイ属などの常緑広葉樹、ニレ属—ケヤキ属などの落葉広葉樹が、少なくとも当時の遺跡周辺に生育していたことが窺える。

一方草本類では、イネ科、カヤツリグサ科など、開けた場所に草地を形成する種群が確認されている。よって、これらは調査地周辺の草地植生に由来すると考えられる。

SK-1の内部・底部（試料番号3）での植物珪酸体の産状は、比較試料とした深掘1（試料番号18）と比較して同様であった。そのため、SK-1の内部・底部にイネ科の植物体が集積していたとは考えにくい。今回の結果を見る限り、少なくともイネ科の内容物や構築物が存在した可能性を積極的に支持することは難しい。

なお植物珪酸体の産状からは、深掘の基本土層が形成された頃やSK-1が埋積する過程で、クマザサ属などのタケ亜科およびイチゴツナギ亜科などのイネ科が生育していたことがうかがえる。タケ亜科の植物珪酸体は他のイネ科と比較して風化に強く、また生産量の多い点がこれまでの研究から指摘されており（近藤,1982; 杉山・藤原,1986）、他の種類よりも残留しやすいことが知られている。そのため、今回の結果も植物珪酸体が残りにくく中で残留しやすい分群が見られたことを反映すると思われる。

(2) テフラについて

本遺跡は、その地理的位置から、十和田カルデラを給源とするテフラの降下堆積物が比較的厚く分布している範囲内にある。今回の調査で認められた土層の年代とされている縄文時代や旧石器時代は、十和田カルデラの活動ステージにおけるカルデラ形成期から後カルデラ期（Hayakawa,1985）に相当することから、調査区内の土層断面で認められた降下軽石層およびテフラ分析で検出された軽石や火山ガラスおよびスコリアは、いずれも十和田カルデラを給源とするテフラに由来する可能性が高い。

今回のテフラ分析を行った試料の中では、深掘1の試料番号14以上、TP-1Wの試料番号4およびSK-1の試料番号3の各試料で軽石が検出されている。軽石の色調や発泡度および角閃石の斑晶を包有していることさらには共伴する火山ガラスの屈折率から、由来するテフラは十和田八戸テフラ (To-H:Hayakawa,1985) である可能性が高い。松山・大池 (1986) によれば、八戸市付近でTo-HはI層からVII層までのユニットが記載されており、そのうち軽石層の層相を示す層位は3層認められている。なお、To-Hの噴出年代は、暦年で1万5,500年前とされている (工藤,2008)。

深掘1における軽石と火山ガラスの産状により、To-Hの降灰層準は、試料番号14付近の4層下部に推定される。このことは、下位の炭化材から得られた年代とも矛盾しない。また、TP-1WやSK-1の各遺構覆土から検出されたTo-H由来の軽石は、遺構周囲の火山灰土中にも含まれていたものが、遺構の埋積過程において遺構内に流れ込んだと考えられる。したがって、遺構の構築は古くともTo-Hの降灰以降であると考えられるが、それ以上の詳細な年代については現時点では不明である。

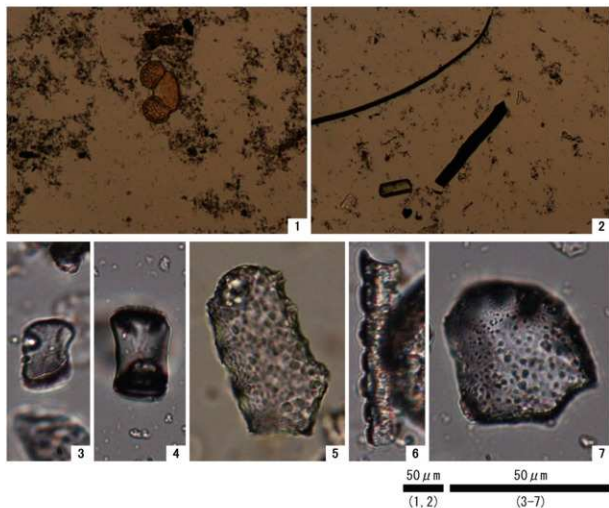
深掘1の試料番号18には、火山ガラスが中量含まれるが、その上位と下位の試料では火山ガラスは微量か極めて微量である。このような層位的産状からは、試料番号18の層位付近に火山ガラス質テフラの降下堆積のあったことが推定される。パブル型の混在する形態組成とその屈折率および4万年前頃の放射性炭素年代を示す炭化材の産出層位であることなどから、試料番号18の火山ガラスは、十和田大不動テフラ (To-Of:Hayakawa,1985) に由来する可能性がある。試料番号16の火山ガラスも、形態組成や屈折率が試料番号18とほぼ同様であることから、To-Ofに由来するものであろう。To-Ofは大規模な火砕流が噴出したテフラとして知られており、今回検出された火山ガラスは、火砕流に由来する火山灰である可能性がある。To-Ofの噴出年代については、小岩ほか (2007) による放射性炭素年代で3万2,000年前前後という値が示されている。その暦年代は明示されていないが、概ね暦年では3万6,000年前頃になるであろう。

深掘1の試料番号22からは少量のスコリアが検出されている。共伴する斜方輝石からは、幅広いレンジの屈折率が得られていることから、複数のテフラに由来する斜方輝石の混在が窺える。したがって現時点では、検出されたスコリアの由来するテフラを特定することはできない。放射性炭素年代との層位関係を考慮すると新しくとも4万年以前に噴出したテフラであることが推定されるが、町田・新井 (2003) の記載などから、十和田カルデラを給源とするテフラの中でスコリアを含むテフラとしては、十和田合同テフラ (To-G:松山・大池,1986) があげられる。詳細な噴出年代は明らかにされていないが、概ね酸素同位体ステージ4頃 (6~7万年前) の噴出とされている (佐瀬・細野,1999)。試料番号22のスコリアは降灰後の再堆積物がローム層中に混入したものと考えられる。

(引用文献)

- Bronk RC. 2009. Bayesian analysis of radiocarbon dates. *Radiocarbon* 51, 337-360.
- 古澤 明.1995.火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別. *地質学雑誌* .101.123-133.
- Hayakawa,Y.1985.Pyroclastic Geology of Towada Volcano. *Bulletin of The Earthquake Reserch Institute University of Tokyo*.vol.60 .507-592.
- Hua Q, Barbetti M, Rakowski AZ. 2013. Atmospheric Radiocarbon for the Period 1950-2010. *Radiocarbon*, 55,2059-2072.
- 小岩直人・柴 正敏・葛西優貴.2007.青森県屏風山砂丘地帯、館岡層中の十和田大不動テフラの AMS14C 年代. 第四紀研究, 46,437-441.
- 工藤 崇.2008.十和田火山エピソード E 及び G 噴出物の放射性炭素年代. *火山* .53.193-199.
- 近藤謙三.1982.Plant opal 分析による黒色腐植層の成因究明に関する研究. 昭和 56 年度科学研究費 (一般研究 C) 研究成果報告書 .32p.

- 近藤謙三,2010,プラント・オパール図譜,北海道大学出版会,387p.
- 町田 洋・新井房夫,2003,新編 火山灰アトラス,東京大学出版会,336p.
- 三好教夫・藤木利之・木村裕子,2011,日本産花粉図鑑,北海道大学出版会,824p.
- 中村 純,1980,日本産花粉の標徴 I II (図版),大阪市立自然史博物館収蔵資料目録 第1213集,91p.
- 鳥倉巳三郎,1973,日本植物の花粉形態,大阪市立自然科学博物館収蔵目録 第5集,60p.
- 杉山真二・藤原宏志,1986,機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定-古環境推定の基礎資料として-,考古学と自然科学,19,69-84.
- Stuiver M. & Polach AH, 1977, Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of 14C Data. Radiocarbon, 19, 355-363.



1. 花粉分析プレパラート内の状況 (深掘1:18)
2. 花粉分析プレパラート内の状況 (深掘1:18)
3. クマザサ属短細胞珪酸体 (深掘1:18)
4. クマザサ属短細胞珪酸体 (SK-1:3)
5. クマザサ属機動細胞珪酸体 (深掘1:18)
6. イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体 (深掘1:18)
7. クマザサ属機動細胞珪酸体 (SK-1:3)

写真図版 1 花粉分析プレパラート内の状況・植物珪酸体



1. 深掘1 6 軽石



2. 深掘1 14 軽石



3. TP-1W 4 軽石

Pm: 軽石. Vg: 火山ガラス.



4. SK-1 3 軽石



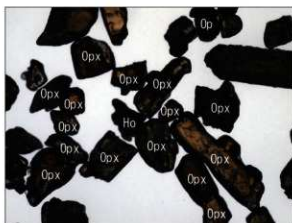
写真図版2 テフラ



1. 深掘1 10 重鉱物



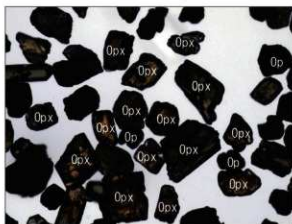
2. 深掘1 16 火山ガラス



3. 深掘1 19 重鉱物



4. 深掘1 18 火山ガラス



5. 深掘1 22 重鉱物

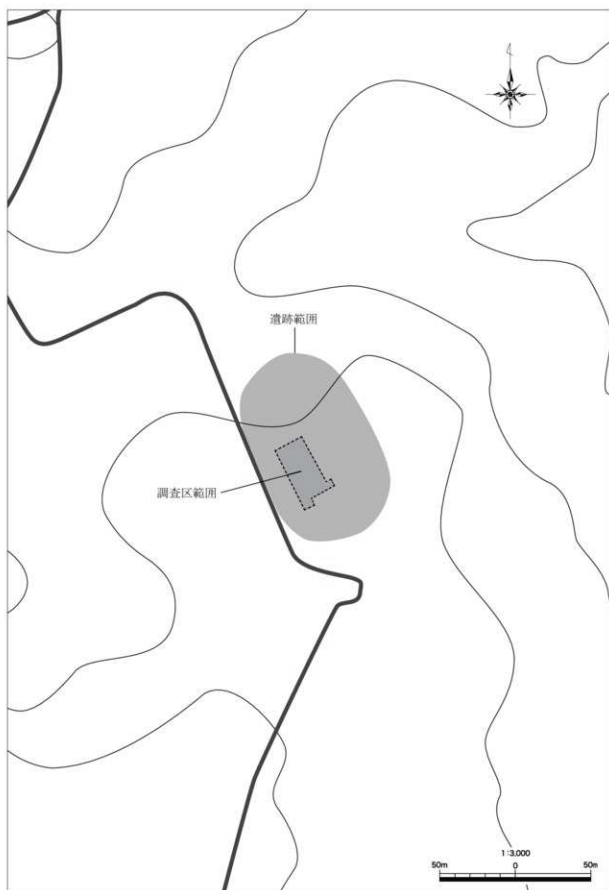


6. 深掘1 22 火山ガラス

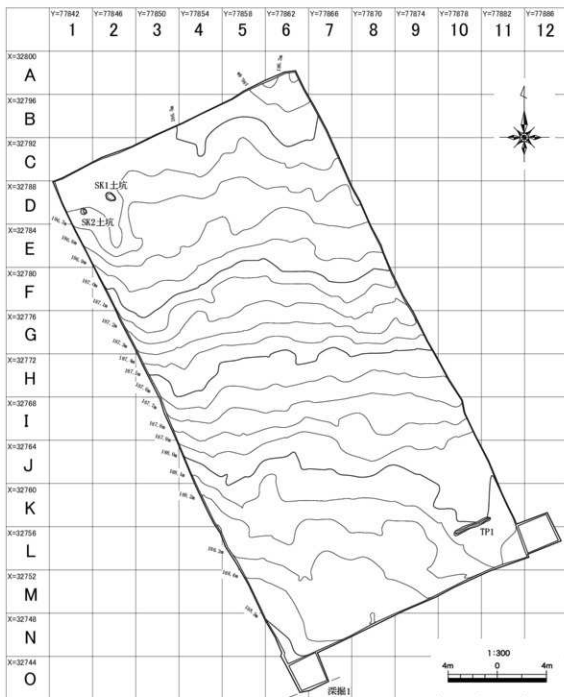
Opx:斜方輝石, Cpx:単斜輝石, Ho:角閃石, Op:不透明鉱物, Vg:火山ガラス, Qz:石英,
Pl:斜長石.

0.5mm

写真図版3 重鉱物・火山ガラス



第10図 調査区範囲図



第11図 遺構配置図

VI. 調査の成果

1. 検出された遺構について

(1) 土坑跡

SK1 土坑 (第12図、写真図版6)

D2 グリッド北側に位置する。平面形は楕円形で、規模は開口部で長径100cm×短径65cm、底部で長径75cm×短径45cm、深さは最深部で30cmを測る。底面は平坦である。底部から壁は外傾して立ち上がり開口部へ至り、断面形は逆台形を呈する。5層に分層され、黒色土、暗褐色土、褐色土、黄褐色土が堆積する。遺構内からの出土遺物はない。

SK2 土坑 (第12図、写真図版6)

D1 グリッド南東側に位置する。平面形は楕円形で、規模は開口部で長径60cm×短径45cm、底部で長径50cm×短径25cm、深さは最深部で35cmを測る。底面は平坦である。底部から壁は直に立ち上がり外傾し開口部へ至る。断面形は円筒形を呈する。4層に分層され、黒褐色土を主体とし、黄褐色土が堆積する。遺構内からの出土遺物はない。

(2) 溝状土坑

TP1 溝状土坑 (第12図、写真図版6)

K11 グリッド、K10 グリッド、L10 グリッドに跨り位置し、等高線に対して斜交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-24°-Eを示す。規模は開口部で長軸370cm×短軸40cm、底部で長軸345cm×短軸8cm、深さは中央部で60cmを測る。底面は平坦である。短軸断面形はU字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。4層に分層され、黒褐色土、暗褐色土、にぶい黄褐色土が堆積する。遺構内からの出土遺物はない。

2. まとめ

土坑については出土遺物がなく、用途は不明である。溝状土坑いわゆる陥し穴状遺構が検出されたことから、当遺跡は狩猟場跡であることが明らかとなった。

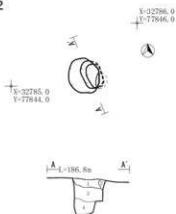
SK 1



SK1

- 1 10YR2/1黒色土 粘性やや中 締まり極めて密 草根入る
10YR5/6黄褐色土 小粒1%入る
- 2 10YR5/6黄褐色土 粘性中 締まり極めて密 草根入る
10YR6/8明黄褐色土 極小粒1%入る
- 3 10YR3/3暗褐色土 粘性強 締まり極めて密 草根入る
10YR7/8黄褐色土 大粒1%入る
10YR6/8明黄褐色土 極小・小粒1%入る
- 4 10YR4/4褐色土 粘性強 締まりやや密 草根入る
10YR5/8黄褐色土 2cm×1cmのブロック下方に入る
10YR5/6黄褐色土 大粒1%入る
- 5 10YR5/6黄褐色土 粘性強 締まり極めて密 草根入る
10YR6/8明黄褐色土 極小・小粒1%入る

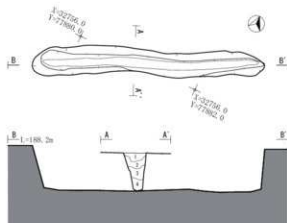
SK 2



SK2

- 1 10YR2/2黒褐色土 粘性強 締まり極めて密 草根入る
10YR7/8黄褐色土 10YR5/8黄褐色土 極小～中粒2%入る
- 2 10YR2/3黒褐色土 粘性強 締まり極めて密 草根入る
10YR5/8黄褐色土 10YR6/8明黄褐色土 極小～中粒5%入る
- 3 10YR3/2黒褐色土 粘性強 締まり極めて密 草根入る 木根入る
10YR6/8明黄褐色土 2cm×1cmのブロック入る
10YR5/8黄褐色土 5cm×3cmのブロック壁際に入る
10YR5/8黄褐色土 小・中粒7%入る
- 4 10YR5/6黄褐色土 粘性強 締まり密 草根入る

TP 1

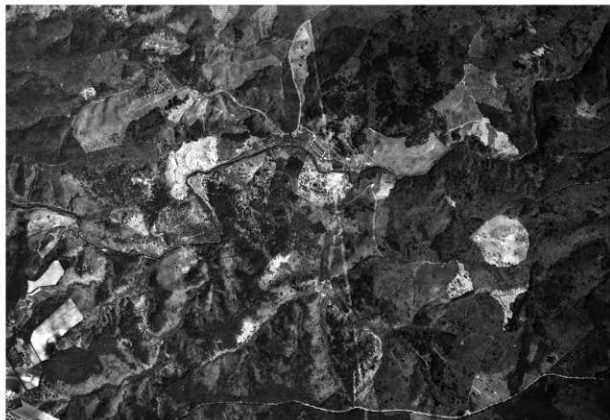


TP1

- 1 10YR3/2黒褐色土 粘性強 締まり極めて密 草根入る
10YR6/8明黄褐色土 10YR5/8黄褐色土 極小～中粒5%入る
- 2 10YR3/3暗褐色土 粘性強 締まり極めて密 草根入る
10YR5/6黄褐色土 7cm×5cmブロック壁際に入る
10YR5/8黄褐色土 10YR6/8明黄褐色土 極小～中粒3%入る
- 3 10YR4/3にぶい黄褐色土 粘性強 締まり密 草根入る
10YR6/8明黄褐色土 10YR5/8黄褐色土 極小～中粒2%入る
- 4 10YR3/4暗褐色土 粘性強 締まり密
10YR5/8黄褐色土 極小・小粒2%入る



第12図 土坑・溝状土坑



遺跡遠景 (上が北)



遺跡近景

写真図版4 遺跡遠景・近景

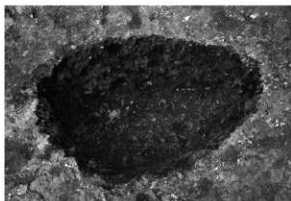


遺跡全景



深掘1土層序

写真図版5 遺跡全景・深掘1土層序



SK 1 完掘



SK 1 断面



SK 2 完掘



SK 2 断面



TP 1 完掘



TP 2 断面

写真図版6 土坑・溝状土坑

報告書抄録

| ふりがな | しもむかいにいせきはつくつちょうさほうこくしょ | | | | | | | |
|---------------|---|-------|------------|-------------------|--------------------|---------------------------|--------|----------------|
| 書名 | 下向Ⅱ遺跡発掘調査報告書 | | | | | | | |
| 副書名 | 太陽光発電所建設工事に伴う遺跡発掘調査 | | | | | | | |
| 巻次 | | | | | | | | |
| シリーズ名 | 洋野町埋蔵文化財調査報告書 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 第 5 集 | | | | | | | |
| 編著者名 | 千田政博 | | | | | | | |
| 編集機関 | 洋野町教育委員会 | | | | | | | |
| 所在地 | 〒 028-7914 岩手県九戸郡洋野町種市 23-27 TEL 0194-65-2111 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 2019 年 10 月 10 日 | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード | | 北緯 ° ' " | 東経 ° ' " | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| 下向Ⅱ遺跡 | いわてけんくへ 岩手県九戸 郡洋野町中 野第1地割 地内 | 03507 | IF99-0251 | 39° 17' 29" | 141° 44' 56" | 20190409 ～ 20190424 | 1,250㎡ | 太陽光発電 所建設工事 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | | 特記事項 | | |
| 下向Ⅱ遺跡 | 狩猟場跡 | 縄文時代 | 土坑 溝状土坑 | | | | | |

洋野町埋蔵文化財調査報告書第5集

下向Ⅱ遺跡発掘調査報告書

太陽光発電所建設工事に伴う遺跡発掘調査

印刷 令和元年10月4日

発行 令和元年10月10日

発行 洋野町教育委員会

〒028-7914 岩手県九戸郡洋野町種市23-27

TEL (0194) 65-2111

印刷 大東印刷株式会社

〒039-1103 青森県八戸市長苗代字内舟渡102-14

TEL (0178) 28-2348
